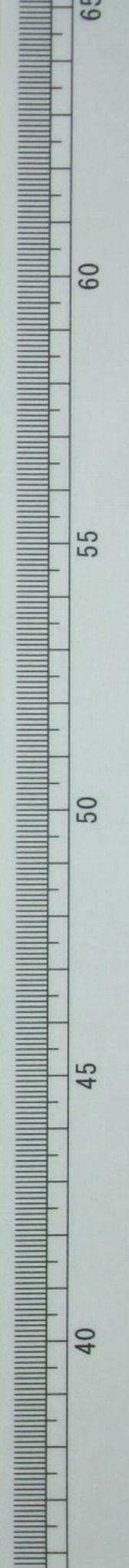


新撰雜歌
 官歌
 一

別置

6多7
 444
 /



宮形 門形
堂形 塔形
繪様

本暮氏畫圖

大工新撰雛形 全部冊

茲編者匠人の道出たる楷榑と成りて人中本暮氏
心力を以て専ら且勲書に編み成りて補ひて一道の繩
墨成る所を以て請受て梓とて早ぬ千鐘茶椀

新撰大工雛形序

瓦ガ 千ヤウ コウ シヨウ
家 銘工 匠 乃 道 也

神武天皇前倭檀原の地以てい

忌部の忌斧忌鉋と以て帝宅を強治

大匠を規摹玉い多。宮社殿階四阿

室舎以て是上棟手斧堅好始なり。



大工雛形

来より人皇三十三代 推古^{スイコ}天皇^{テイ}之^チ能^{ヨク}君

上官^{シヨウグウ}太子^{タイ}百^{ハク}福^{サイ}園^{コク}より。後^{ノチ}の^{ノチ}職^{ツカサ}司^シと^シる^ル。

寺院^ジ樓^{ロウ}基^キ廊^{ラウ}房^{ボウ}堂^{ダウ}塔^{タク}閣^{カク}庫^コ門^{モン}戸^コ塙^{シヤウ}壁^{ヘキ}

聖^{ケイ}堂^{エイ}の^ヒ松^{ジユウ}樹^ツと^{オヒ}教^{ナラ}習^{ナラ}り^シめ^テ終^{ノチ}い^キく^ク後^{ノチ}規^キ程^{ケイ}

準^{ジユ}一^{ジユ}繩^{ゴウ}毫^リ厘^リと^フ不^ゴ誤^ゴ如^ク何^クも^クは^クる^ク異^イ域^{イキ}と^ハ死^シす。

其^セ子^シ先^テ哲^ツあり^ク。雖^{ヒト}形^{カタ}等^ノの^メ明^{メイ}細^{サイ} **形** **書**

教^{カス}く^ク者^{シヤ}と^シて^シる^ル。工^{コウ}重^{ジュウ}に^タ便^{メイ}する^ルの^ノを^シる^ル。実^{ジツ}の

儀^{モレ}ら^ルる^ル。平^{ヘイ}道^{ドウ}以^キ業^{ギョウ}と^シ奉^{ホウ}は^スと^シく^ク。其^シれ

何^{ナニ}事^{コト}も^モ。頻^{ヒン}ふ^フ慈^ジ心^{シン}に^シて^シ。母^ボ元^{ゲン}甲^カ律^{リツ}意^イ等^{トウ}

お^{コウ}持^{タツ}く^ク。この^コ達^{ダツ}の^ワ実^{メイ}心^{シン}と^シて^シ。點^{テン}して^シて^シ。

終^{シユ}ぬ^ル。此^{コノ}れ^ノが^ガ再^ニ明^{メイ}を^シて^シ。身^ミに^シて^シ。家^ケお^ホを^シて^シ。

事^{コト}の^ホ只^シ一^{イツ}心^{シン}の^ホ子^シの^ホも^モ。此^{コノ}れ^ノが^ガ育^{イク}人^{ニン}也^{ナリ}

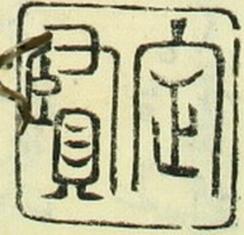
大正維新 時

靴ジヤの踏タトき踏ヘこはヒ一部を踏フふ。踏フふ。
名ナ匠シウ夫フ五ゴが不フ審シウの誤アりリ正シヤウさクらク
蒙モウ工コウ諸シヨ一イツ流リウちチんン歎

新撰八龍集家未秋吉名

仁和賤工

本著者甚七



新撰工雜形卷一目錄

祚樂所

教米拙作

春日作一同社

世世拙作

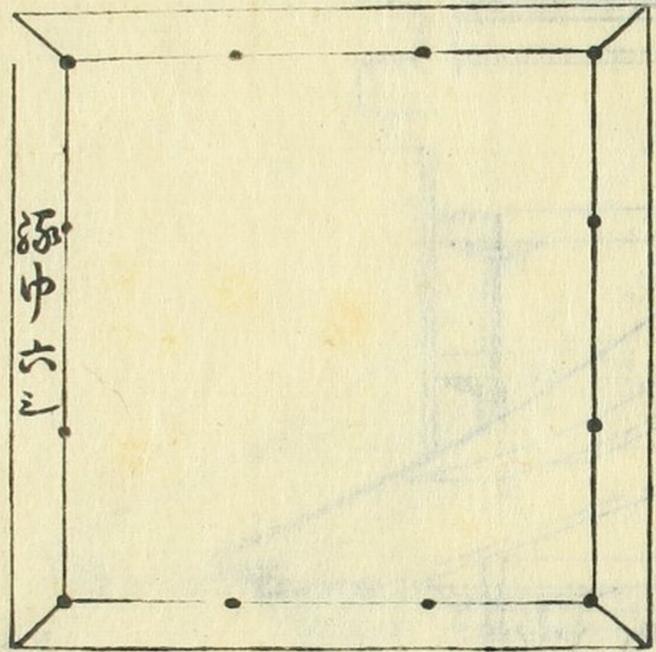
一同社方社作

大三同社

祚明拜殿 英地

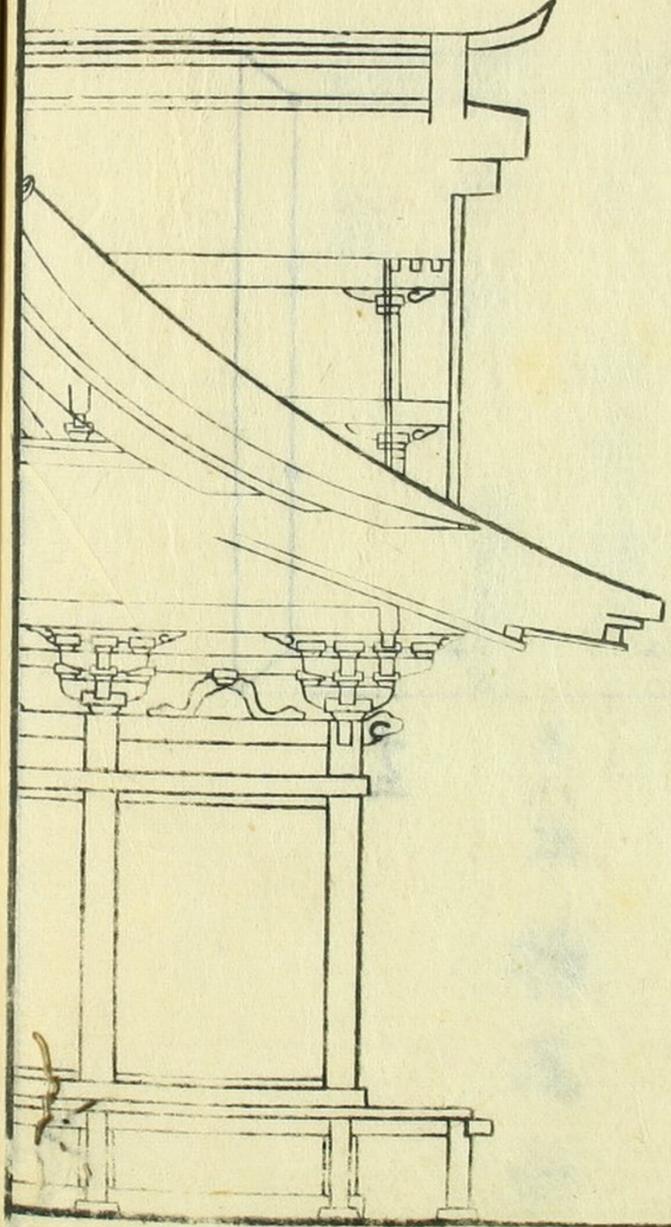
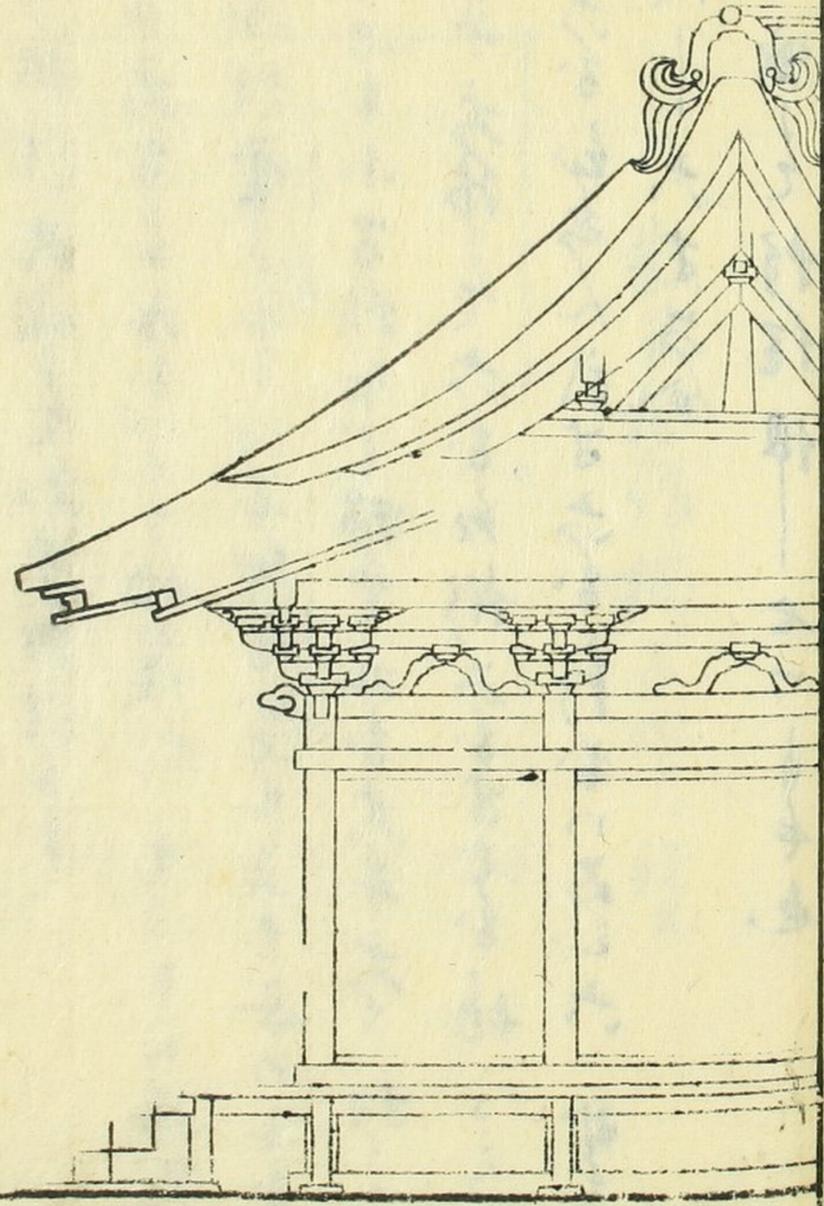
同外宮 平妻共
 同內宮
 神的一間宮
 七面作
 神與

水



十二
 十八
 十二

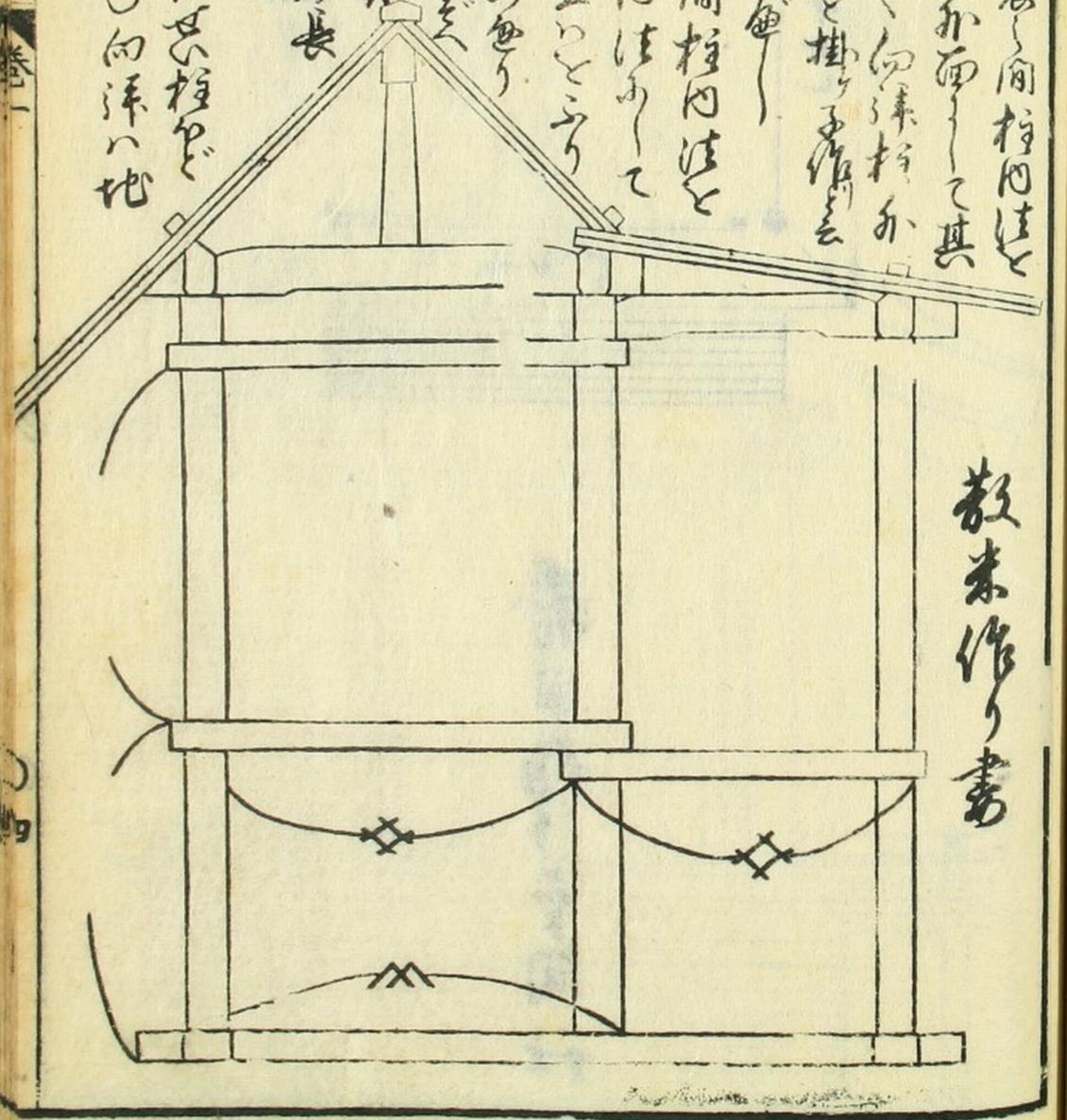
神系新



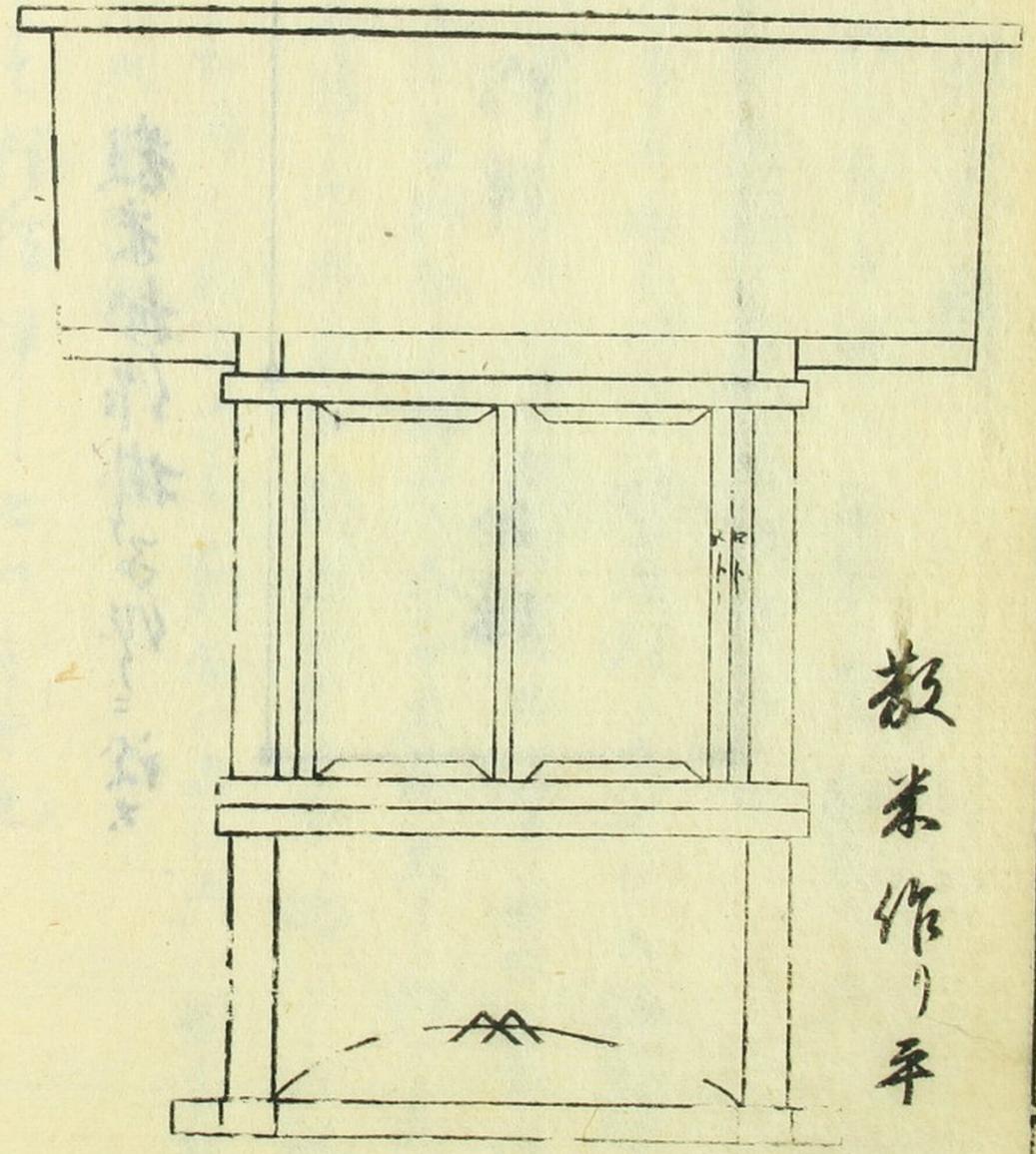
补系新

一 間口の指の表へ向柱の法と
 法をたれり柱の内へして其
 内よりとろく向柱の内
 へして定め是と掛り
 丸合紋を合毎
 一 三斗の素へ向柱の法と
 ろく此押の法とて
 繩をびし上りとろり
 向柱の内へして
 向柱の内へして
 地へ其の分長
 押あかぬ
 一 柳下の柱の内へ其の法と
 一 大板を配かき向柱の地
 割のなり

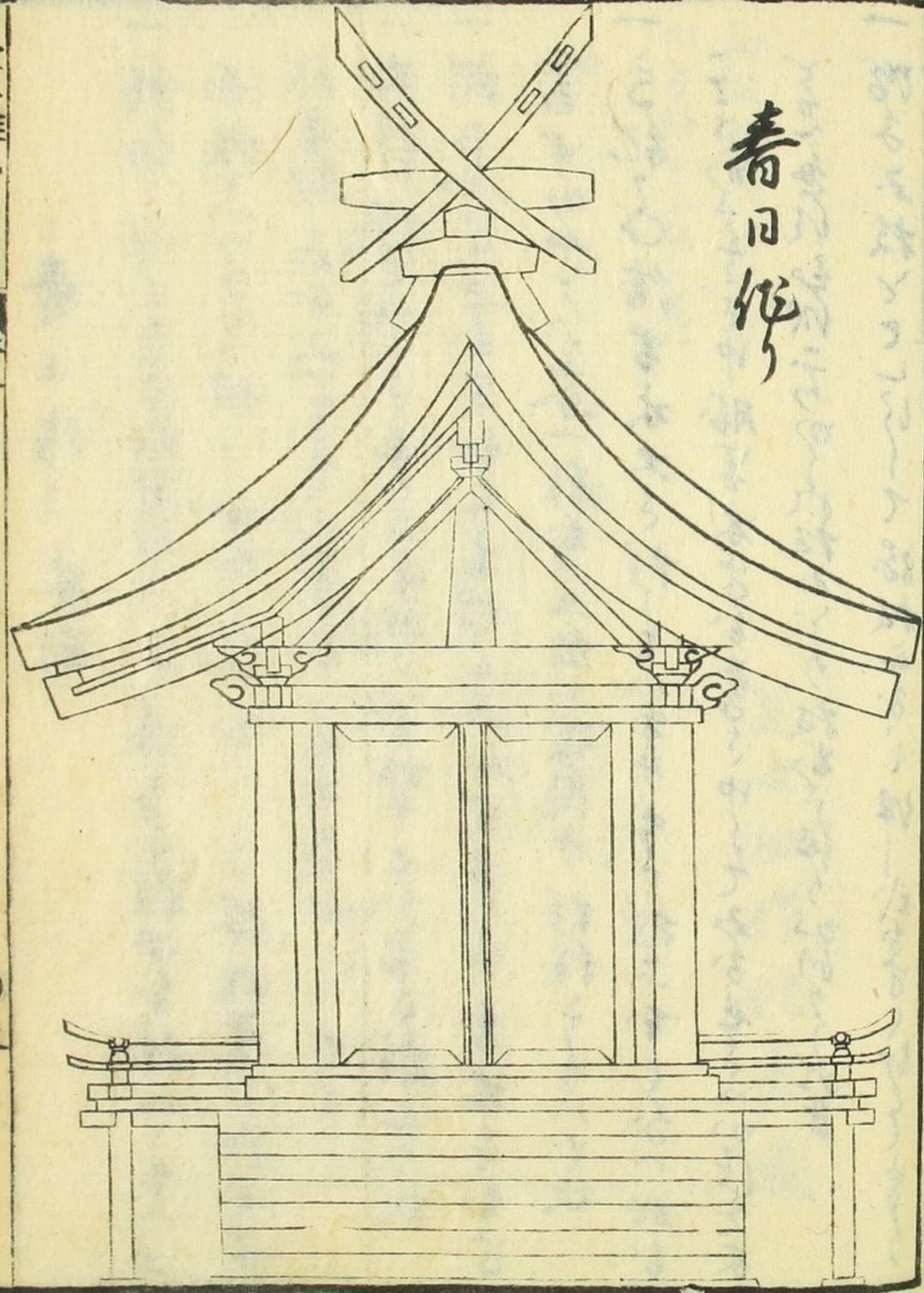
大工雑形 卷一



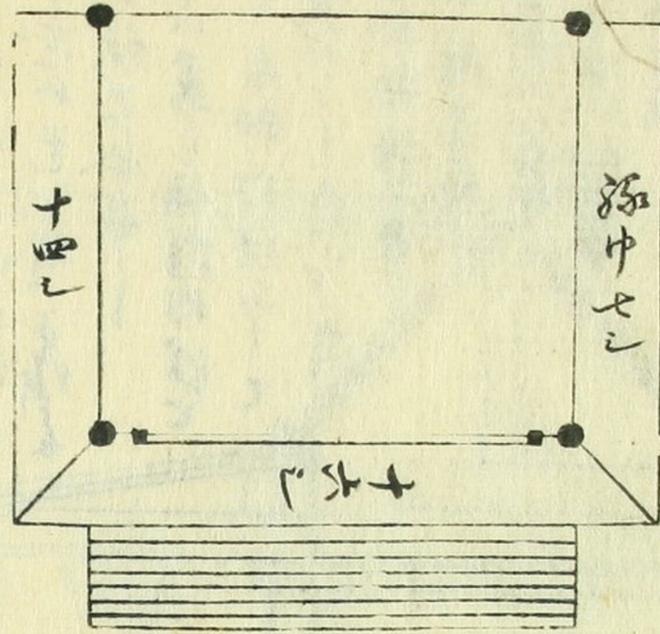
散末作り書



散末作り平



春日作



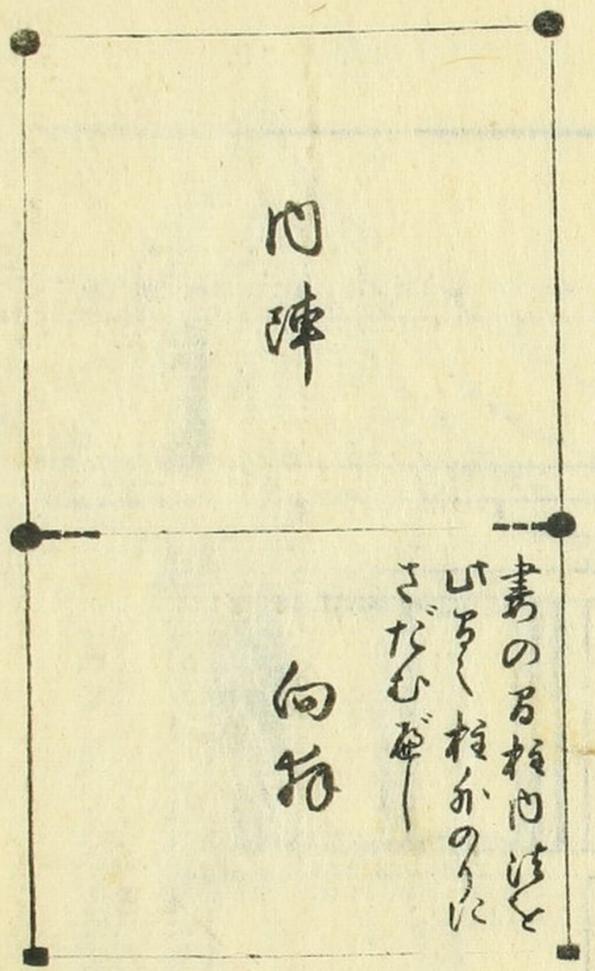
春日作の堂間社

春日作り 本割

一 柱向の圓をまきす或分ちて底をまき柱四本地をくわいの
 添板の上をまき柱一四本をまき柱一添板をまき分ち
 日を押みかみまき或分ちくわいのまき柱一
 一 四本の柱向のりとまき上を押みかみ或分ちをまき柱一割
 一 柳五分まきまきまきまきまき分ちまき分ちまきまきまき
 嘉甲のやまき分一割まき九板に柱風中柱をまきまき板
 一 一記の柱まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 一 一記の柱まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 一 一記の柱まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 一 一記の柱まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

見世柳作地差圖

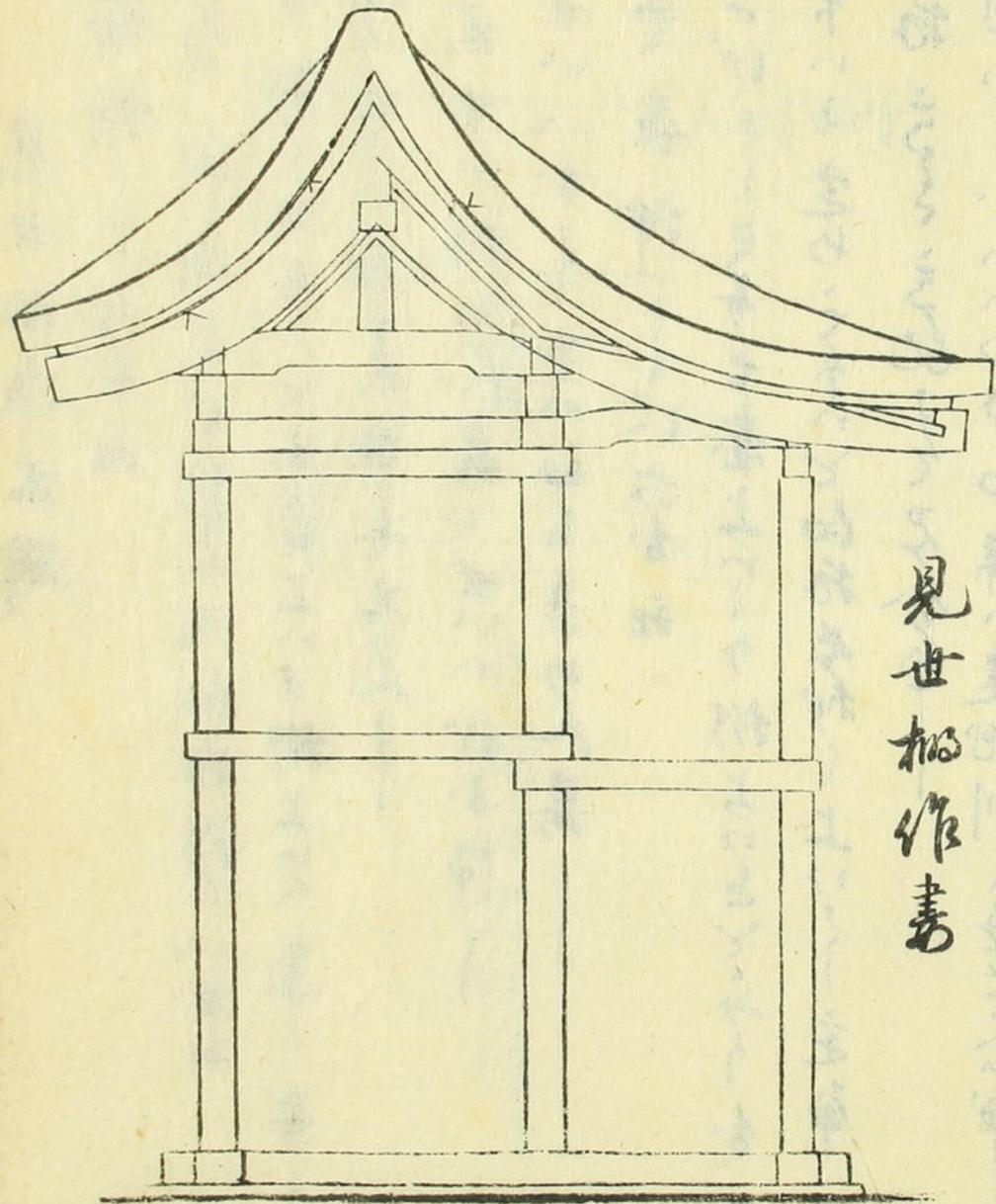
向回柱内法と素
 のり板中あて定



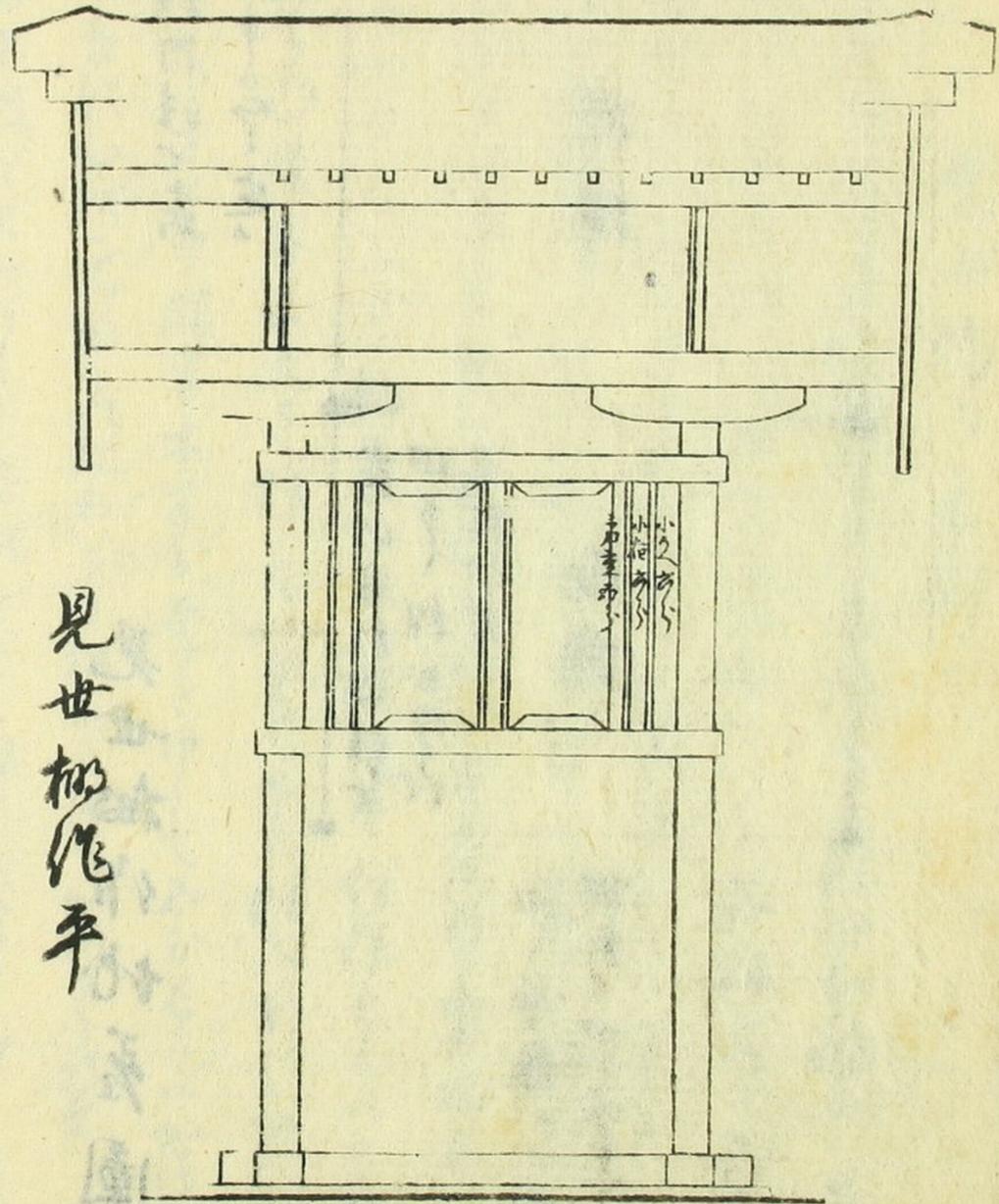
向回

向板

向回柱八小間
 柳板四小間



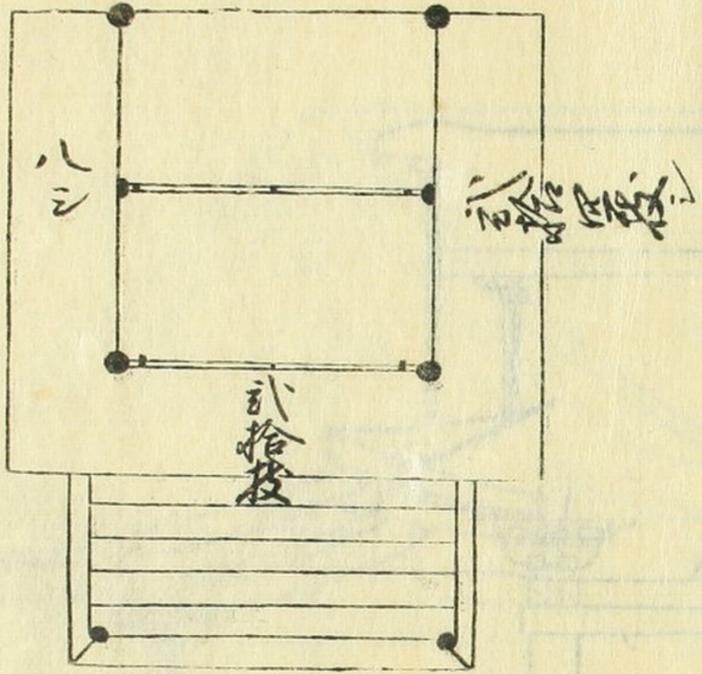
見世松作妻



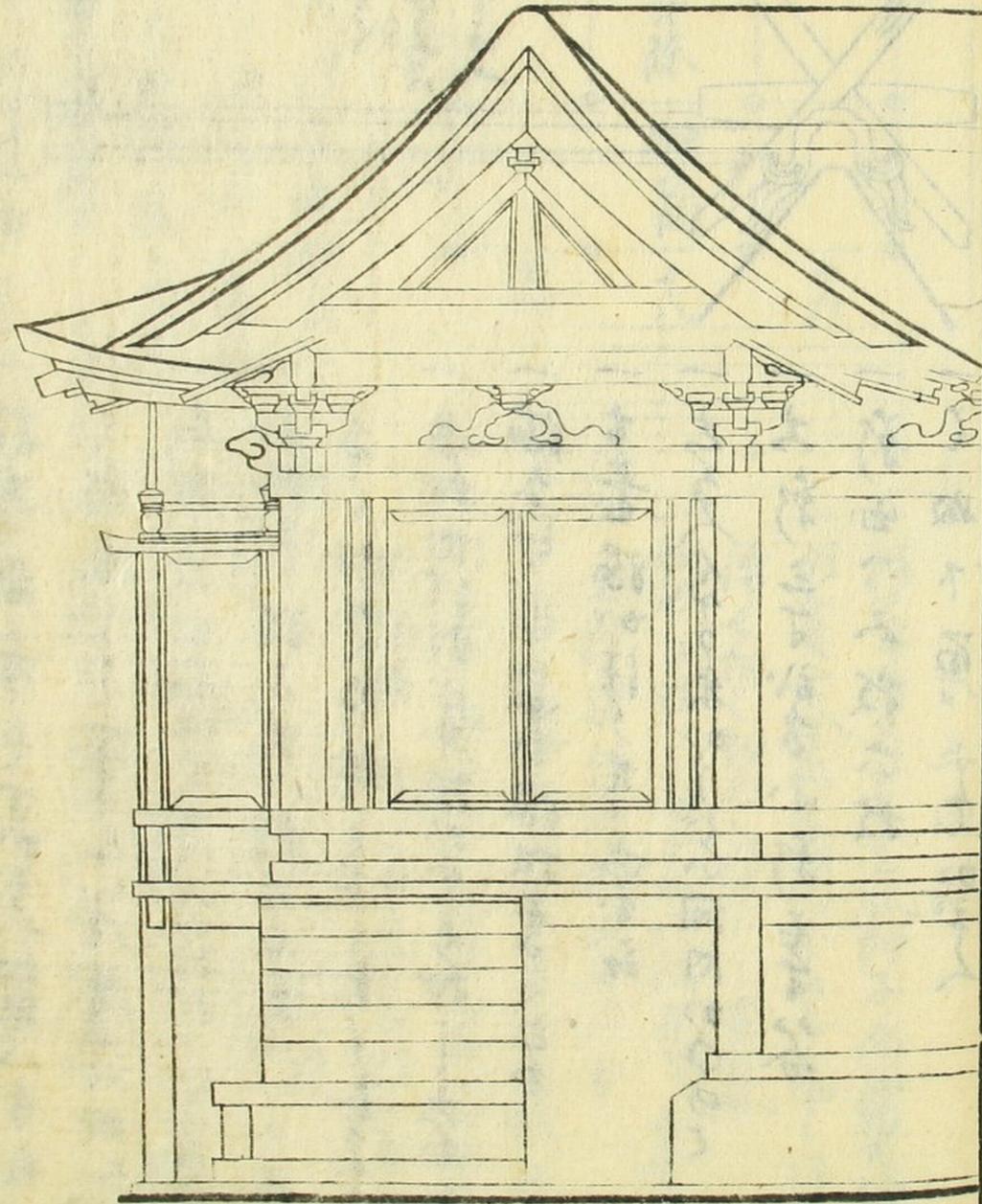
見世松作平

見世松作本割

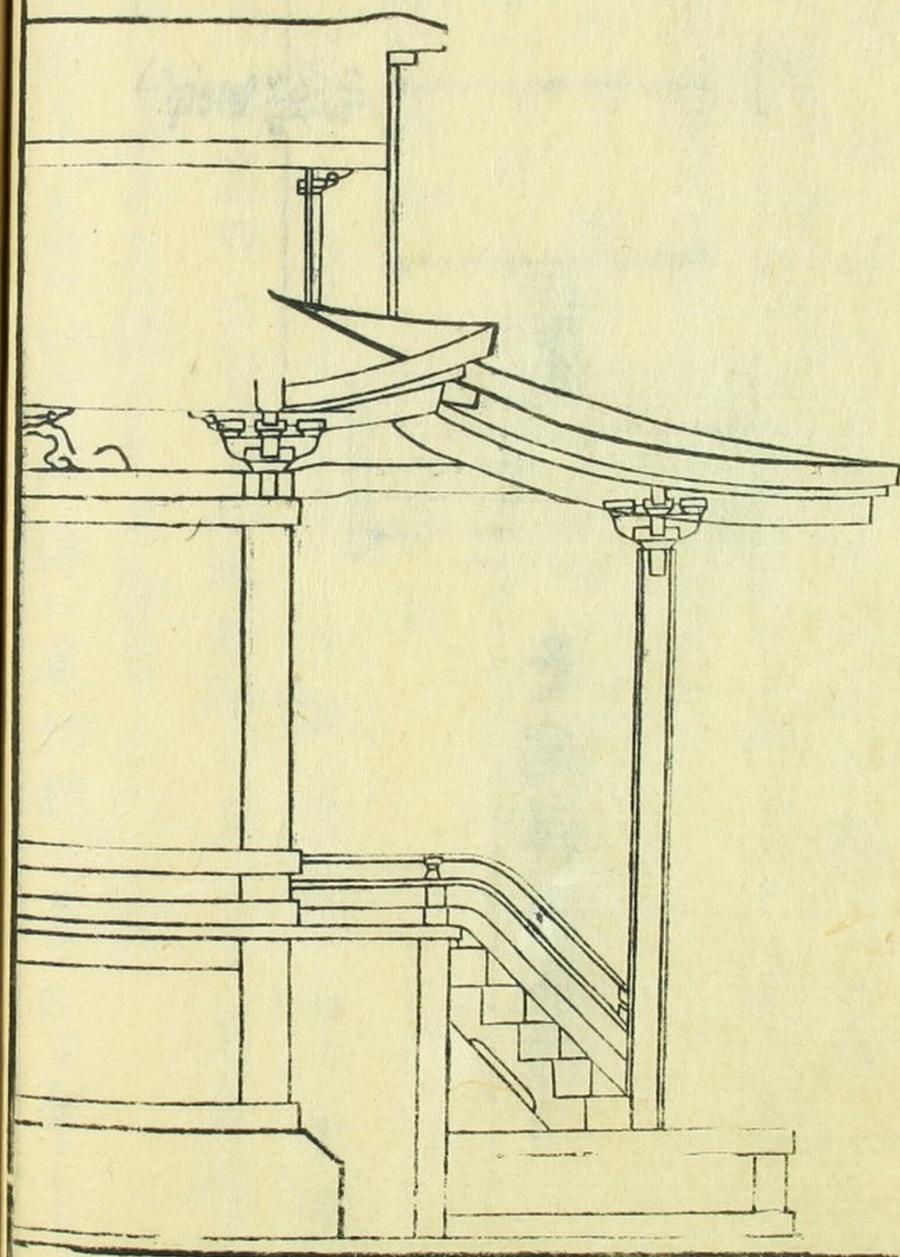
- 一 出登柱とて九分五
- 一 柱太半 向く間とすのど人日向物柱の八分五
- 一 高半 柱く懸とて出登上の高半 柱上の高半
- 一 柱の太さい 高半とて高半
- 一 財木下の柱めん落し せいん式分は
- 一 桁せい 八分五 下のせらきめん落し
- 一 桁せい 長押とて五分五
- 一 腰さげ 高半とて高半 上より 柱上のとより 高半 長
- 一 押下い 定めとて高半とて高半 上より 定め
- 一 向物 高半とて高半
- 一 間内 向く高半とて高半

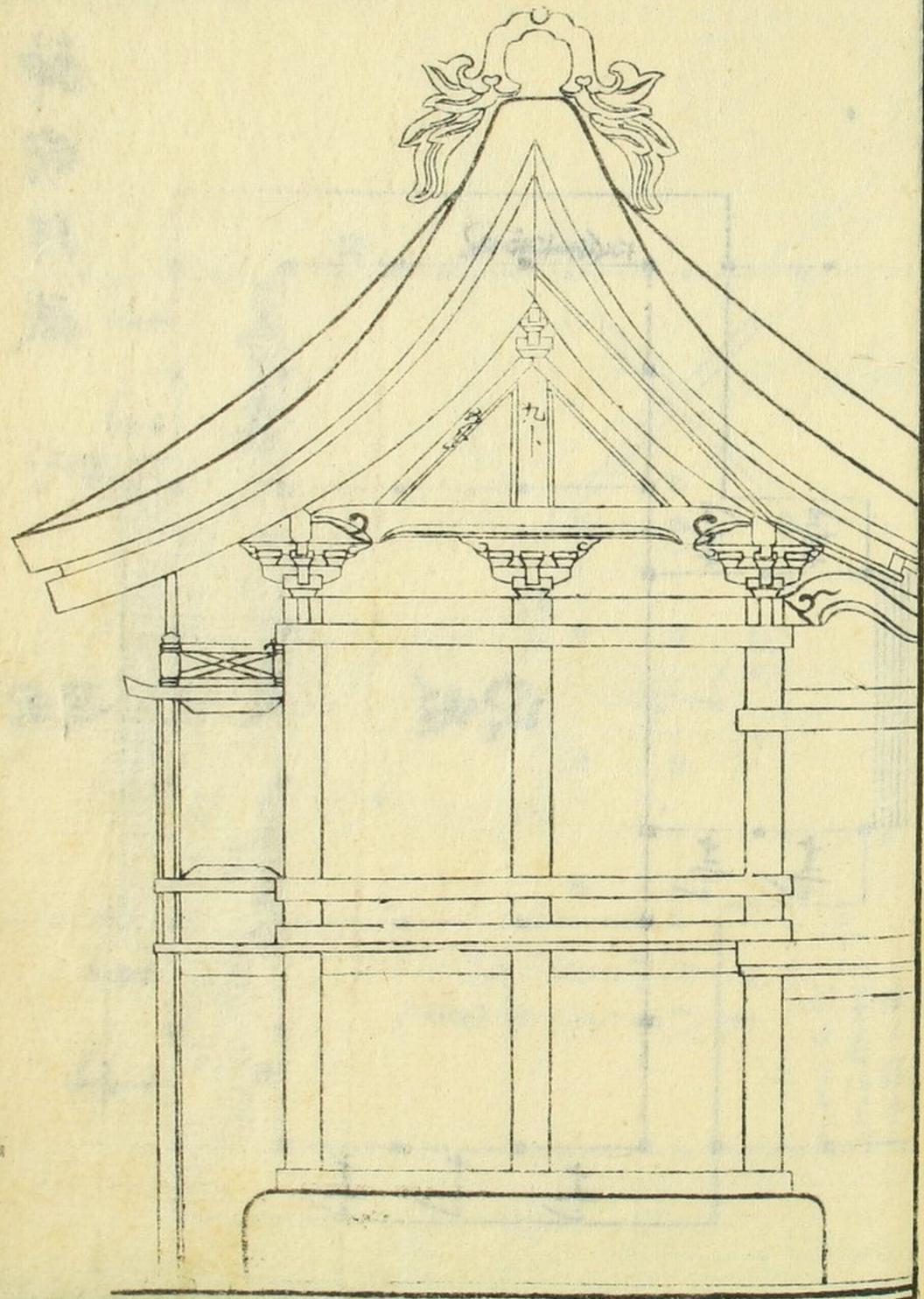


高半松作本割



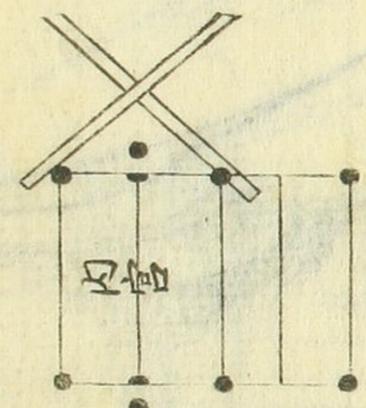
壹間社大社造





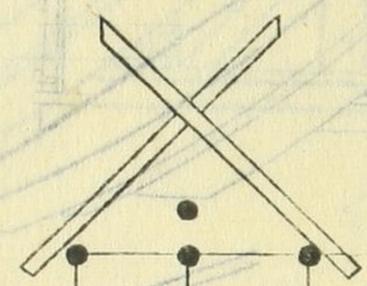
大三間社

一 後軒出ハ大式柱ト云記ニ割側軒ハ大式ニト也
 一 白拜軒五ノ六ニ
 一 本家間ハ大軒五寸志多ノ守即也白地式ナリ
 一 同式人式ナリ



早細

妻之間表板の法
燕外法之定



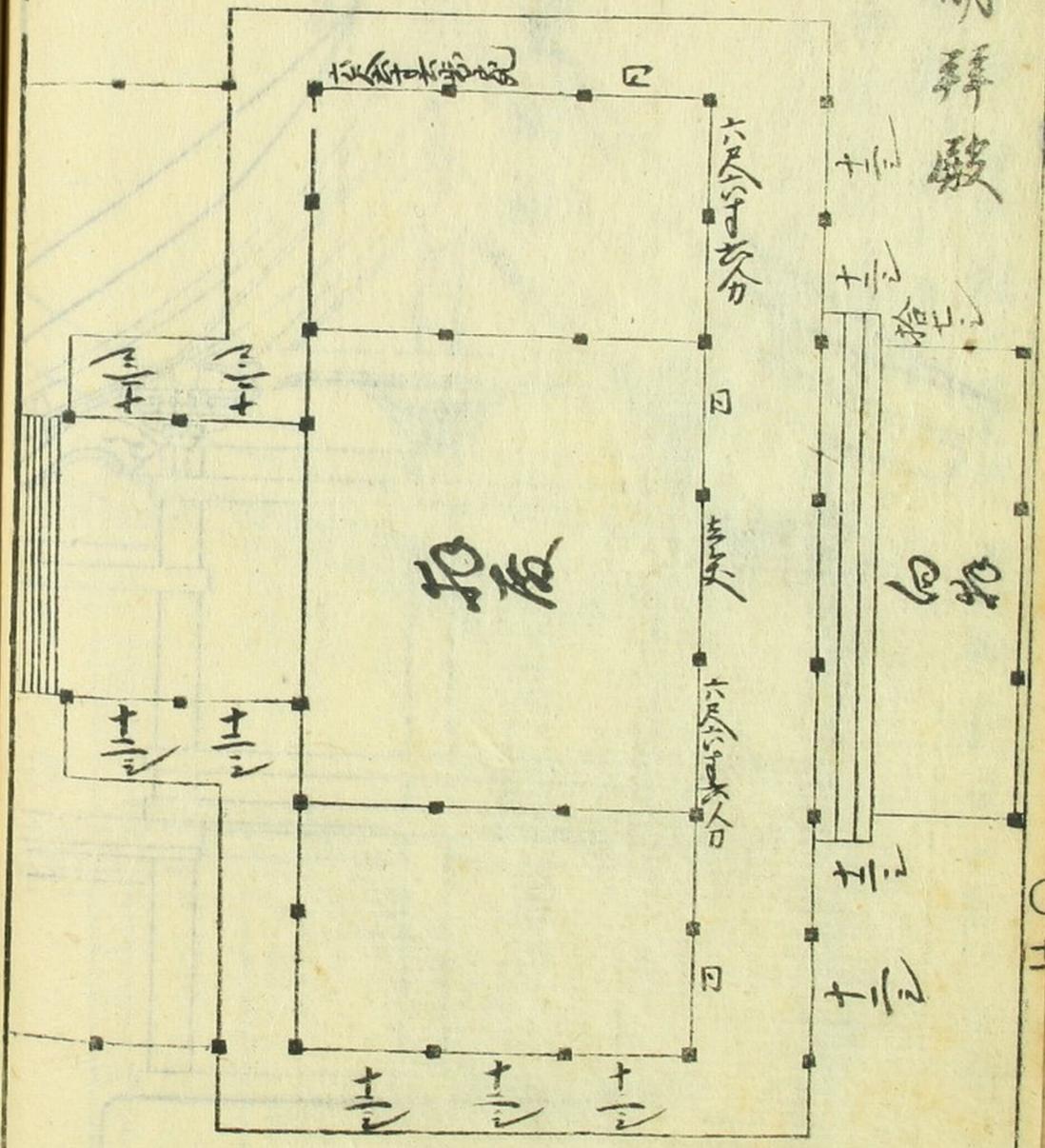
洋版十二之間

板切戸

大正維新の建築
妻之間の表板の法

十二
但之縁中
茅葺法
短中法

神明拜殿



目取

板版

六尺寸五分

日

妻

六尺寸五分

日

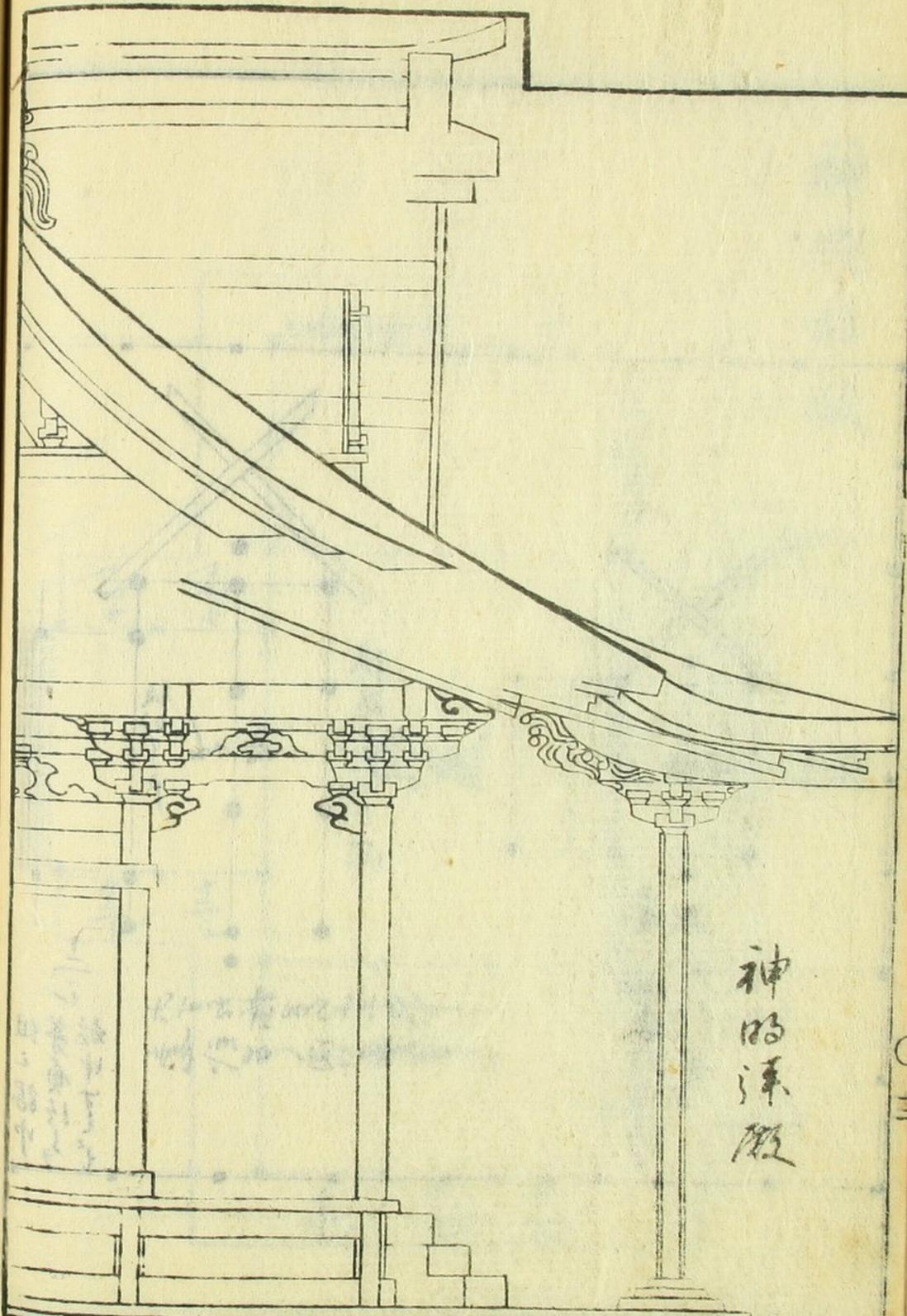
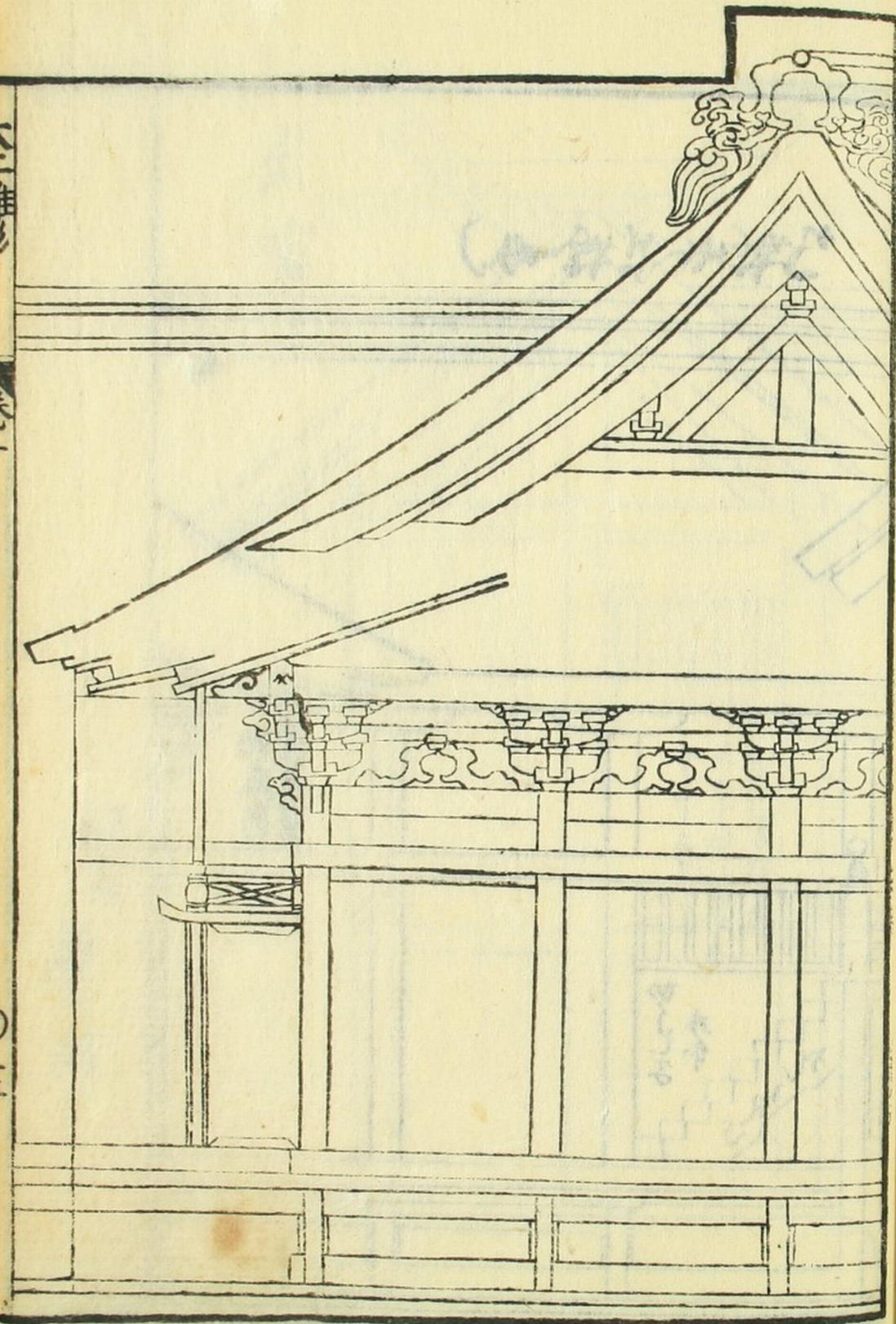
十二

十二

十二

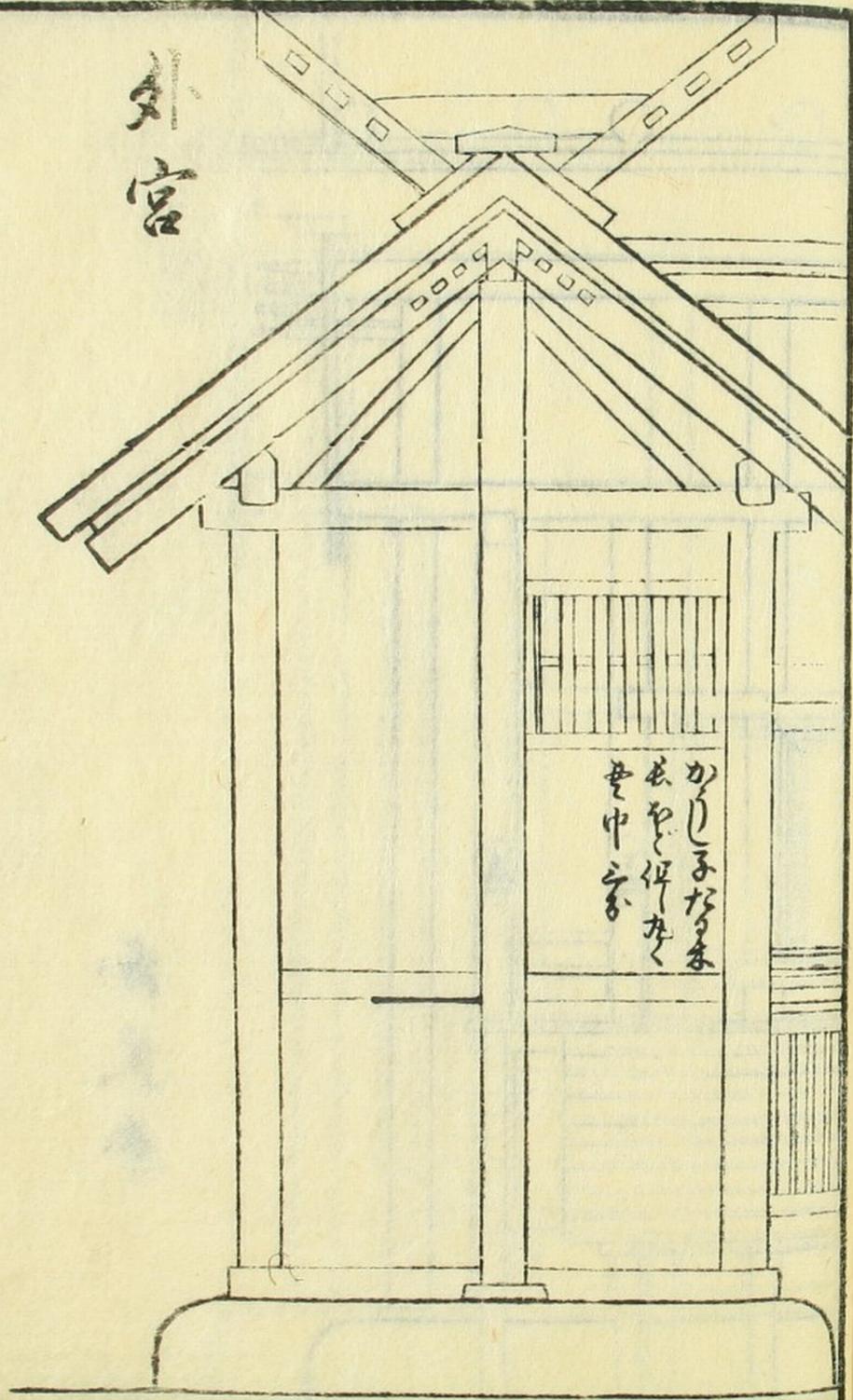
十二

十二



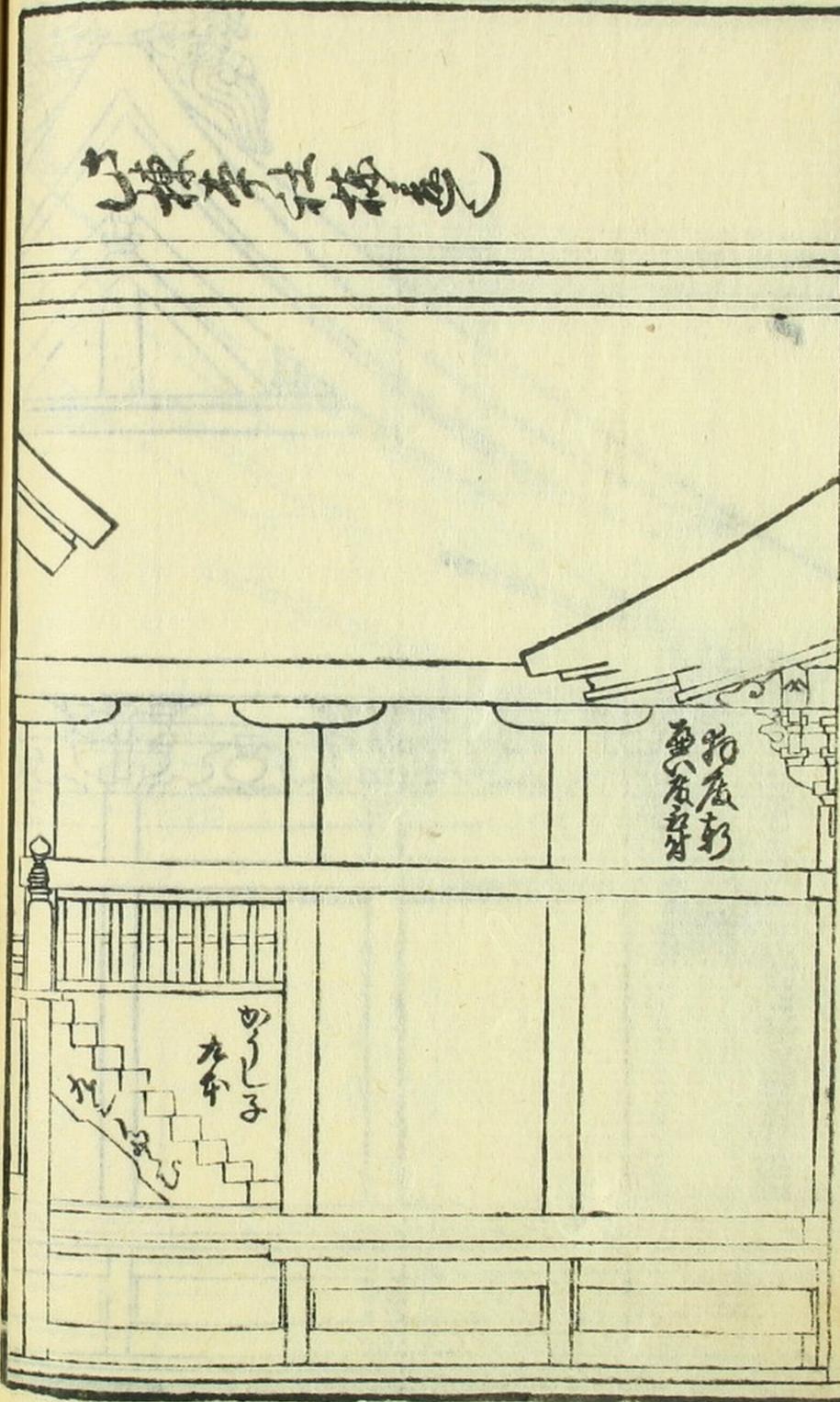
神明涼殿

外宮
石の間



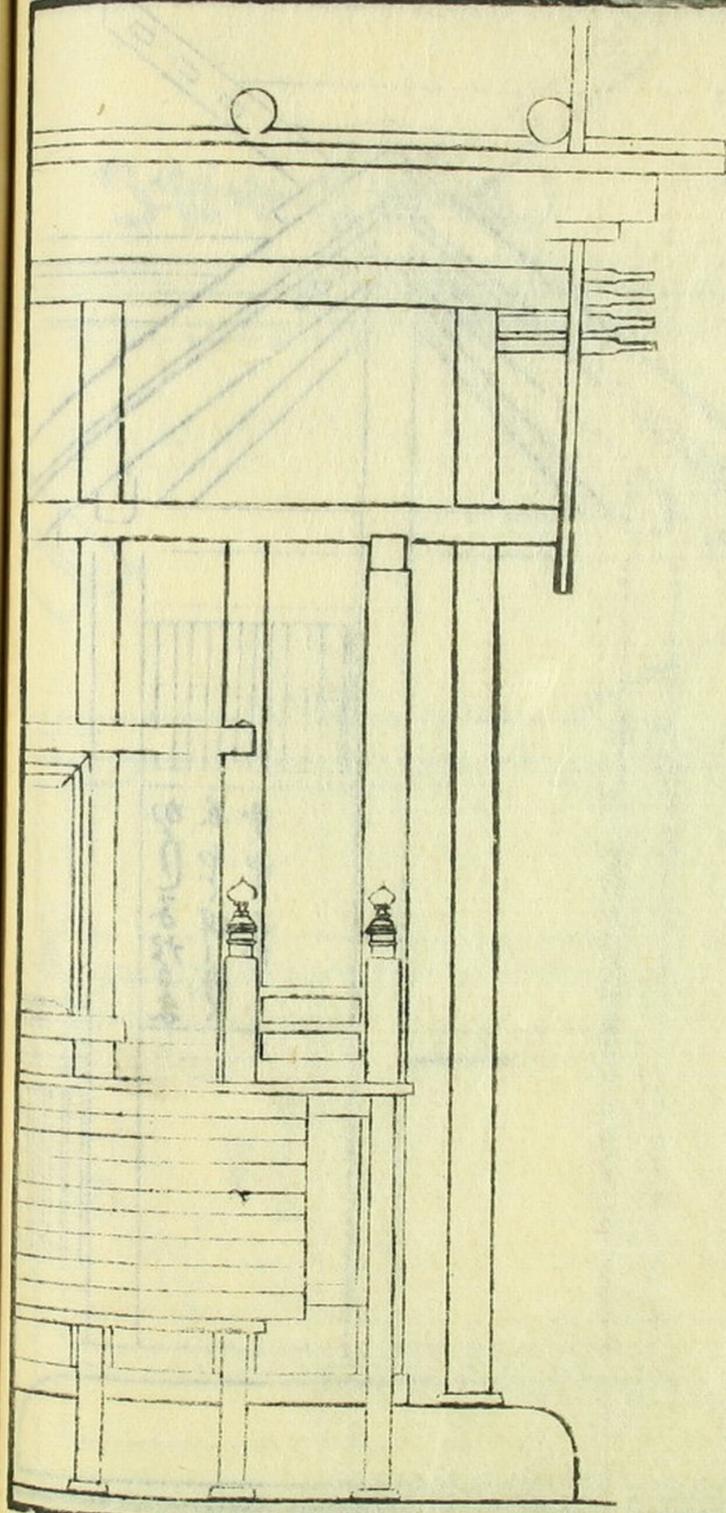
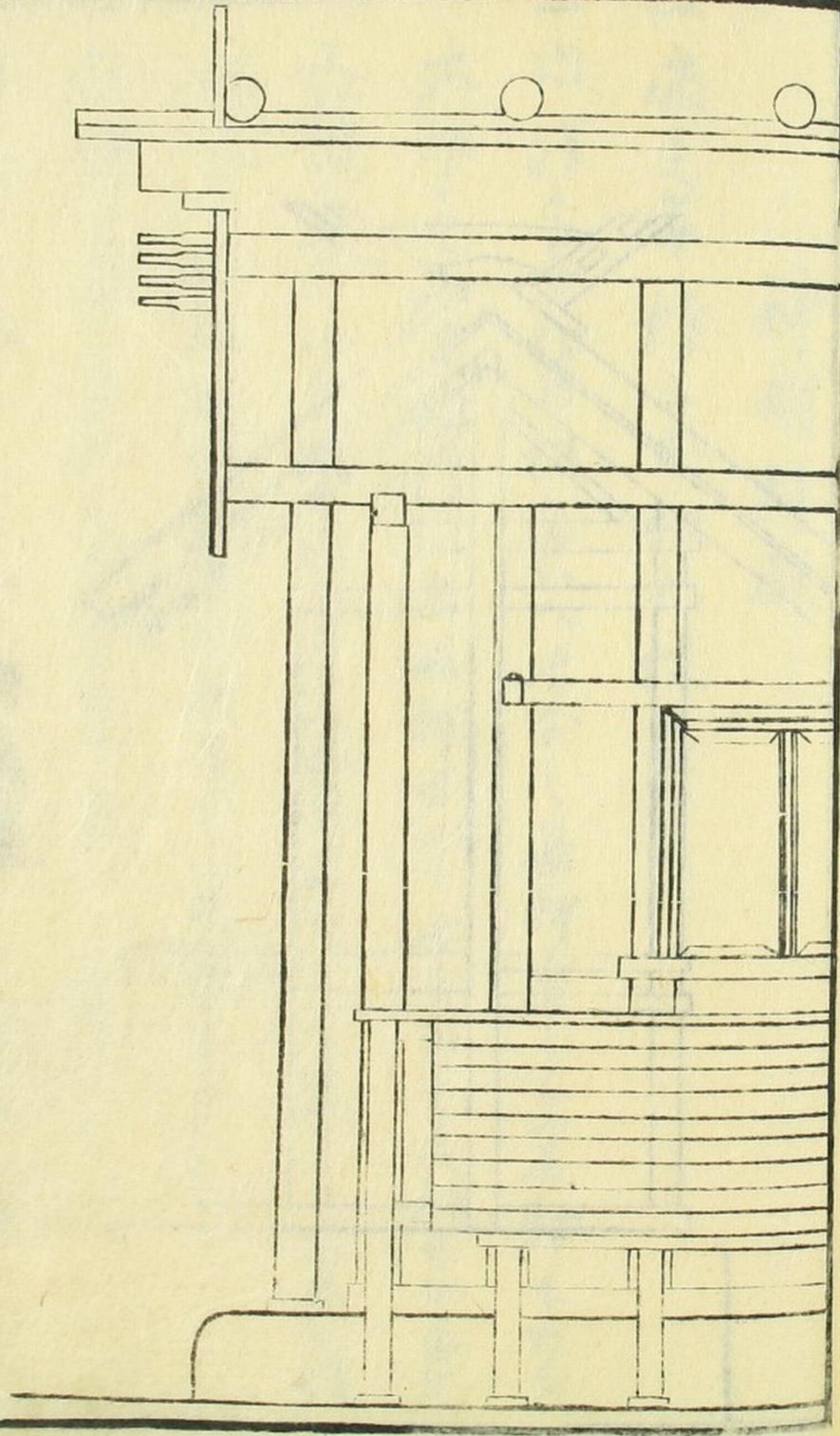
かり子たき
長を伴
其中家

外宮(内宮)

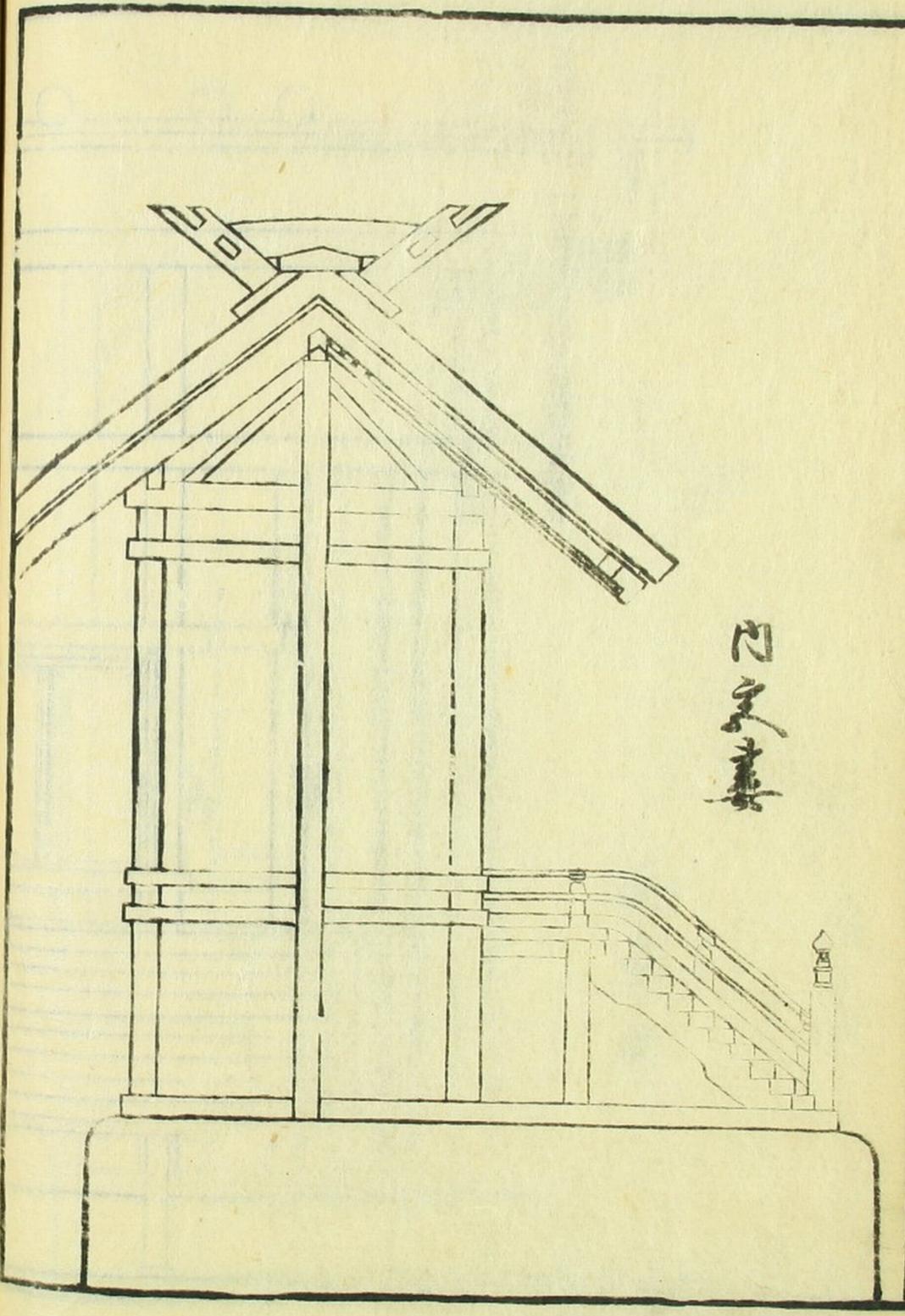


物置
無名

かり子
たき



外文平



神明殿

神明拜殿

一 棟より切板の上より七分長押あり上長押ありと
 一 内法より切板の上より七分長押あり上長押ありと
 一 大間より内法の上長押あり七分長押あり上長押ありと
 一 大間より内法の上長押あり七分長押あり上長押ありと
 一 内法より切板の上より七分長押あり上長押ありと
 一 内法より切板の上より七分長押あり上長押ありと
 一 内法より切板の上より七分長押あり上長押ありと
 一 内法より切板の上より七分長押あり上長押ありと
 一 内法より切板の上より七分長押あり上長押ありと
 一 内法より切板の上より七分長押あり上長押ありと

一 六年八月廿九日 板入り 四寸一

一 芳原六分 板入り 七分一

一 寸一 板入り 板入り 縁甲 板入り 寸一 寸一 板入り 板入り

一 縁板七分 板入り 板入り 一切 板入り 寸一分

一 板入り 寸一分 板入り 寸一分

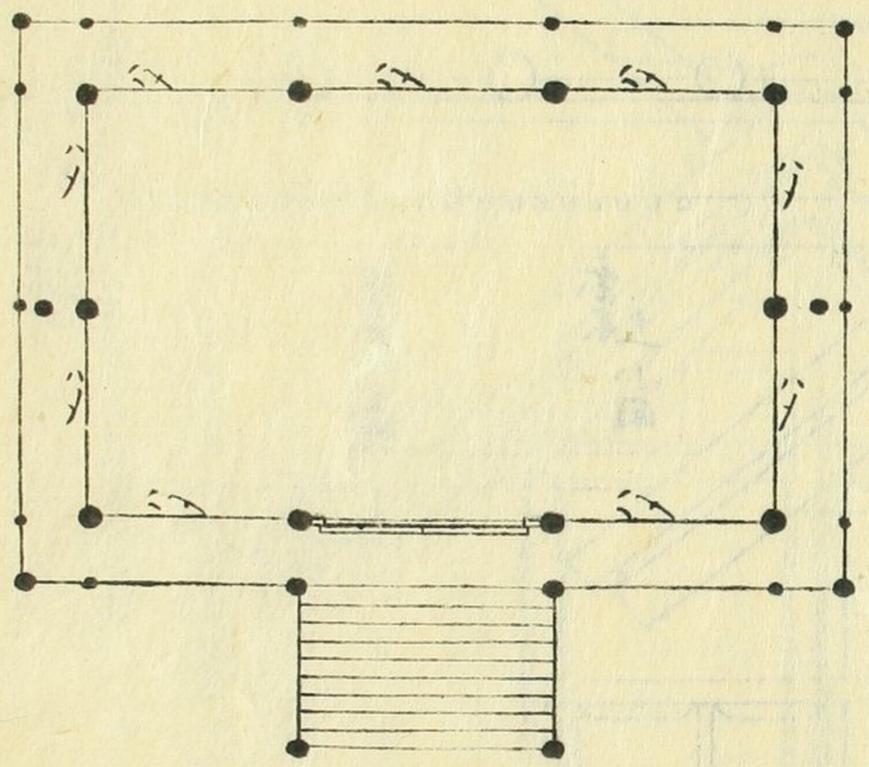
一 板入り 九寸一 板入り 寸一

一 板入り 寸一分 板入り 寸一分

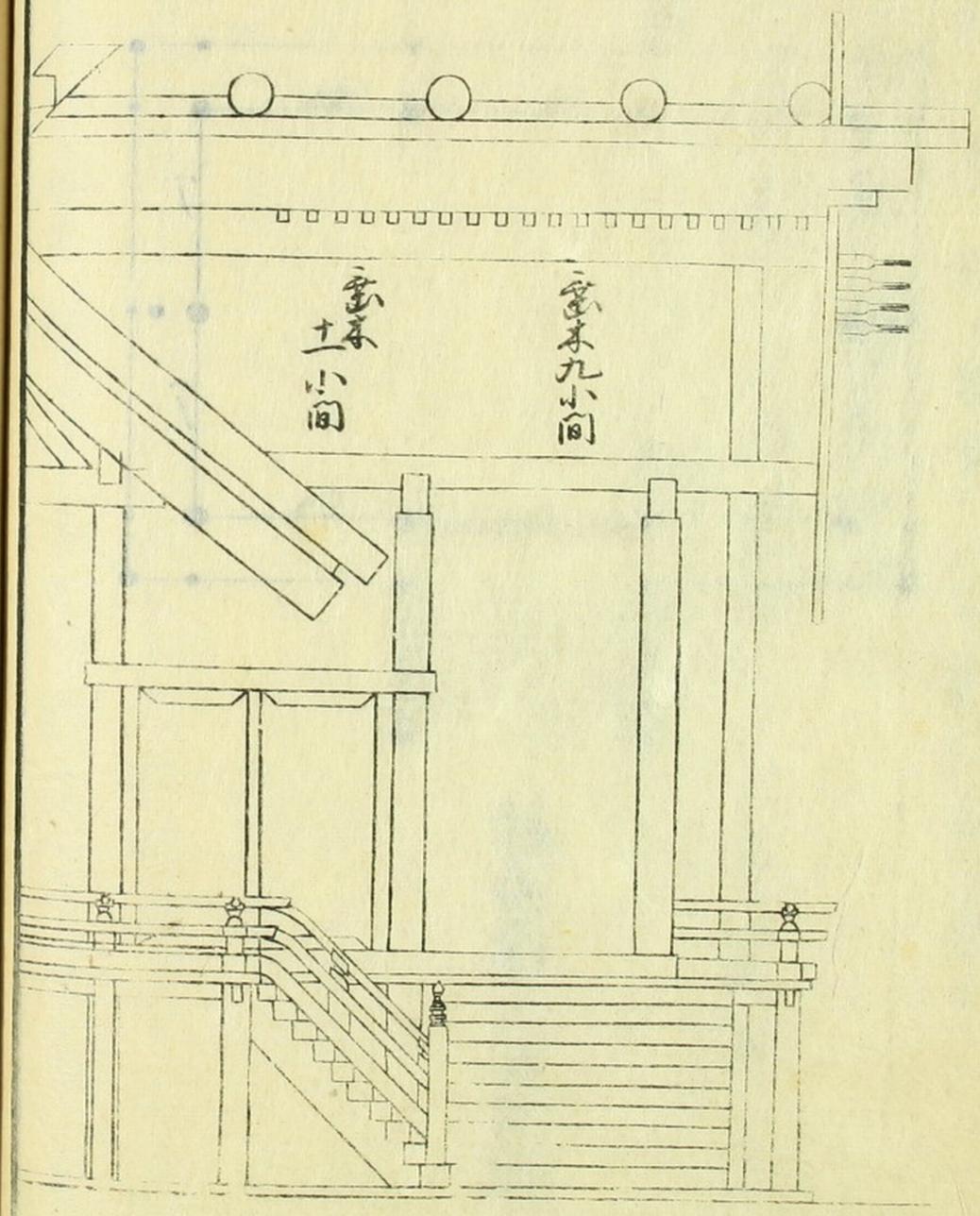
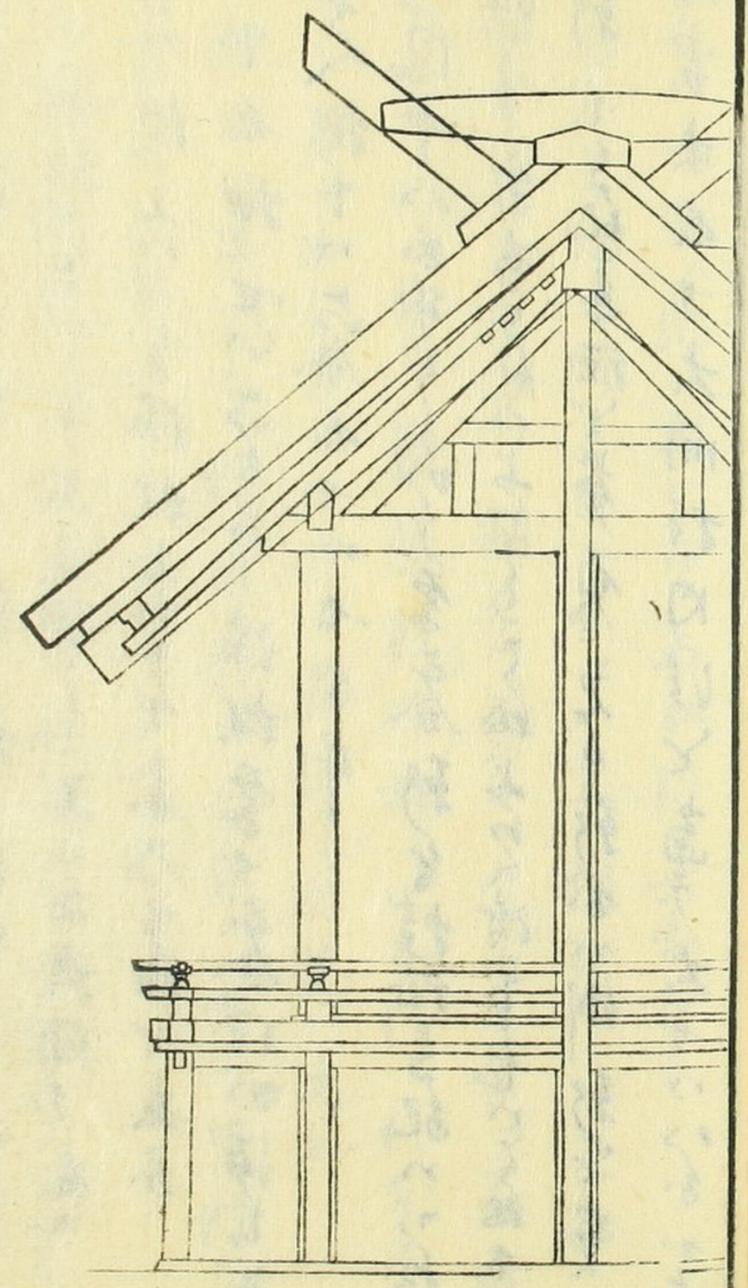
一 板入り 中板 寸一分 板入り 寸一分

一 寸一分 板入り 寸一分 板入り 寸一分

一 三層の檜を分けたる本世の八本割松前々あり
 一 是より社乃河と山をそり合
 一 表の若ふ分へ小腰より板のくさるくさるをい
 一 き新のつらばら松のいさぶら



神田作の三同社



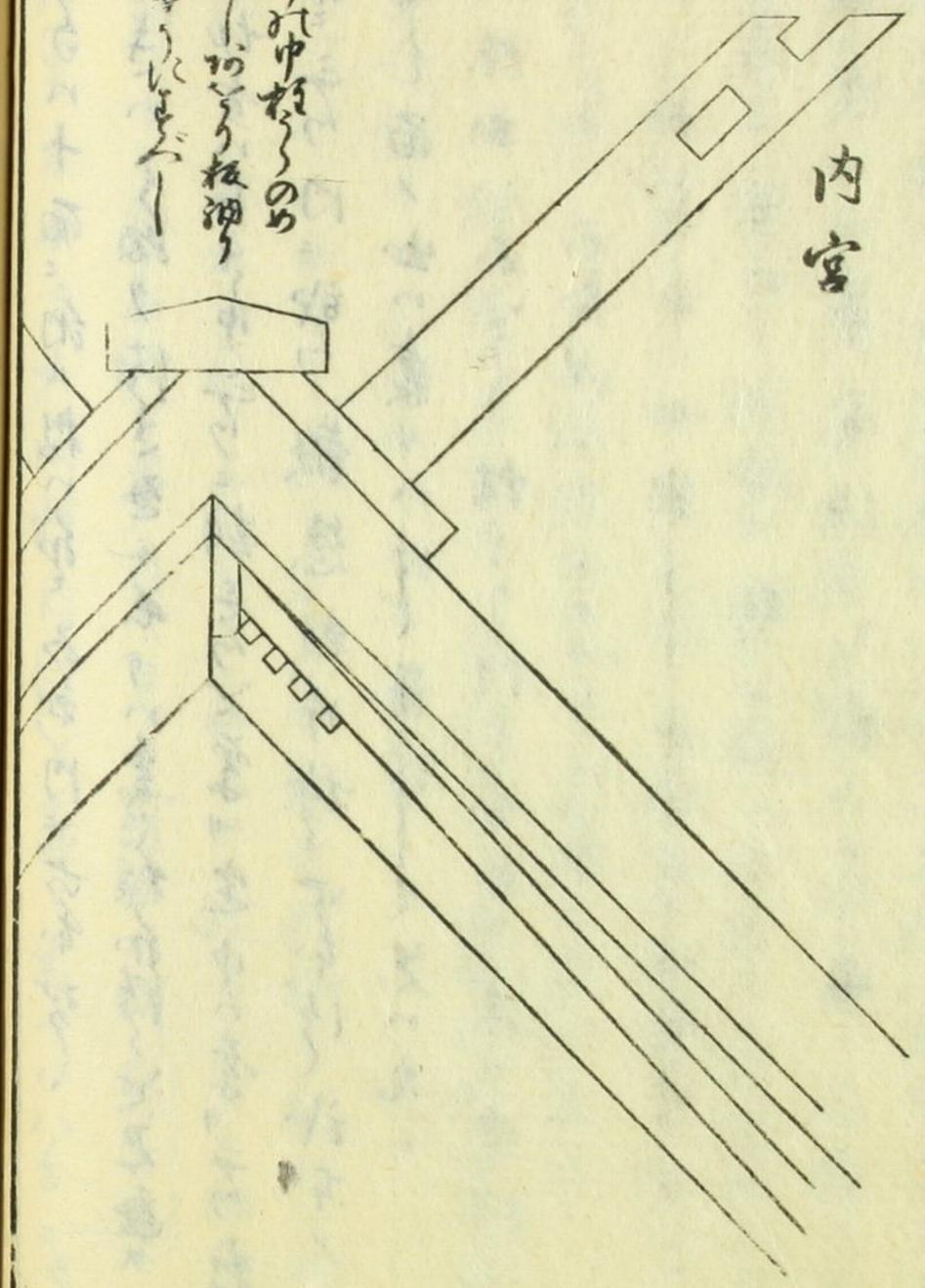
神明作りの三間社本割

- 一 柱大サ大間としき寸法がど二、柱ハ分斗二、さし
立中しの上中しく、素木真、高下ハ八ツ中、思慮く立ん
- 一 床高サ深下とし柱ハ本階子拾之、割階子大サ踏面六分斗
- 一 切ノ長押下ハより上を、げし、上ハ之大間ヲ立ん
- 一 高サ板上一ハより深板上ハ中々素乃ち柱と立ん
- 一 上下長押下ハ分斗深板厚サ分斗ハ浦ち五分
かど人板下ハ分斗七分斗
- 一 破風中ハ分斗う、わ、厚分斗、柱径三記ハハ、
但し、素木三記ハ上ハしく、板上一ハ、浦下ハ、付
新し、三記、素木と、素木、二、尺、新ハ、例、新と、思
- 一 猪鬃木大サ大間、柱ハ、法と、高サ、大サハ、八分、かど人

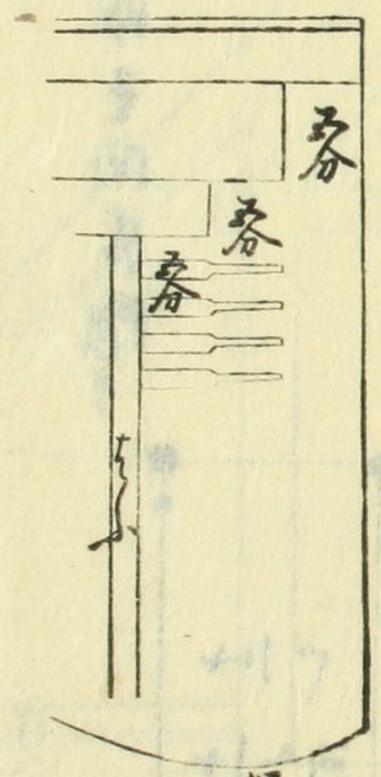
- 一 ちきいと、板ヲ、法、き、越、之、出、サ、ハ、素、木、板、厚、三、と、尺、毎、尺
- 一 凡、切、音、ハ、ち、さ、中、下、ハ、割、き、ハ、と、厚、サ、定、中、ハ、厚、サ、ハ、板、を
板、下、ハ、内、二、部、ハ、板、懸、板、片、持、ハ、中、ハ、板、三、式、本、ノ、意
- 一 本、ハ、留、メ、出、ハ、裏、ハ、ハ、板、角、ハ、一、テ、先、ハ、丸、之
- 一 上、棟、ハ、ハ、あ、り、板、下、ハ、板、本、ハ、ハ、大、サ、中、板、下、ハ
ハ、厚、ハ、五、分、板、一、小、ウ、下、ハ、ハ、ハ
- 一 一、切、ノ、板、ハ、ハ、切、新、より、五分、厚、四、分、中、ハ、ハ、板
と、通、ハ、本、ハ、ハ、と、浦、ハ、板、一、
- 一 縁、高、サ、ハ、素、木、厚、三、と、板、ハ、素、木、用
- 一 高、サ、大、サ、素、木、板、厚、三、と、板、ハ、素、木、用

内宮

わくわくの中
あつた板
能くは

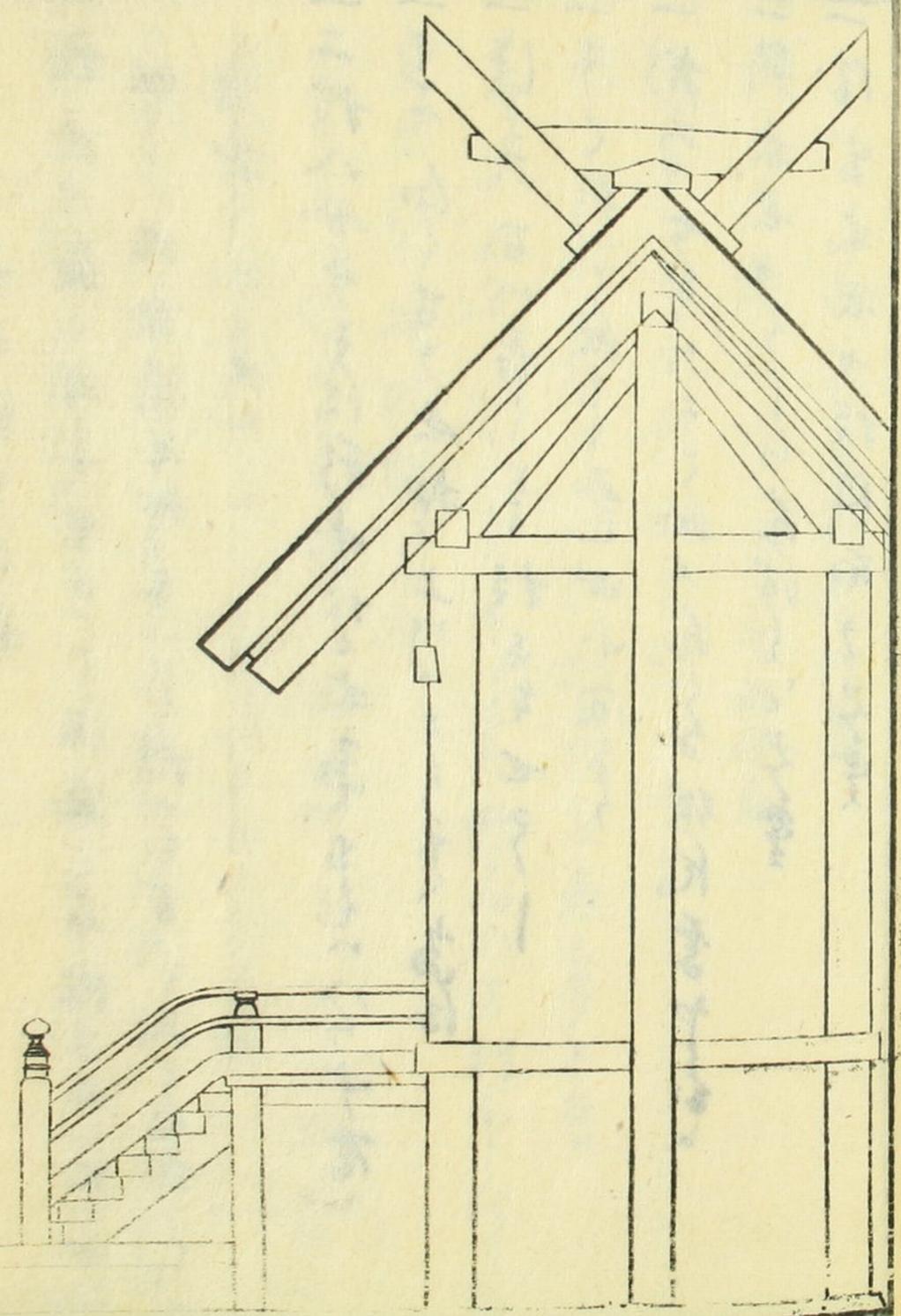


外宮

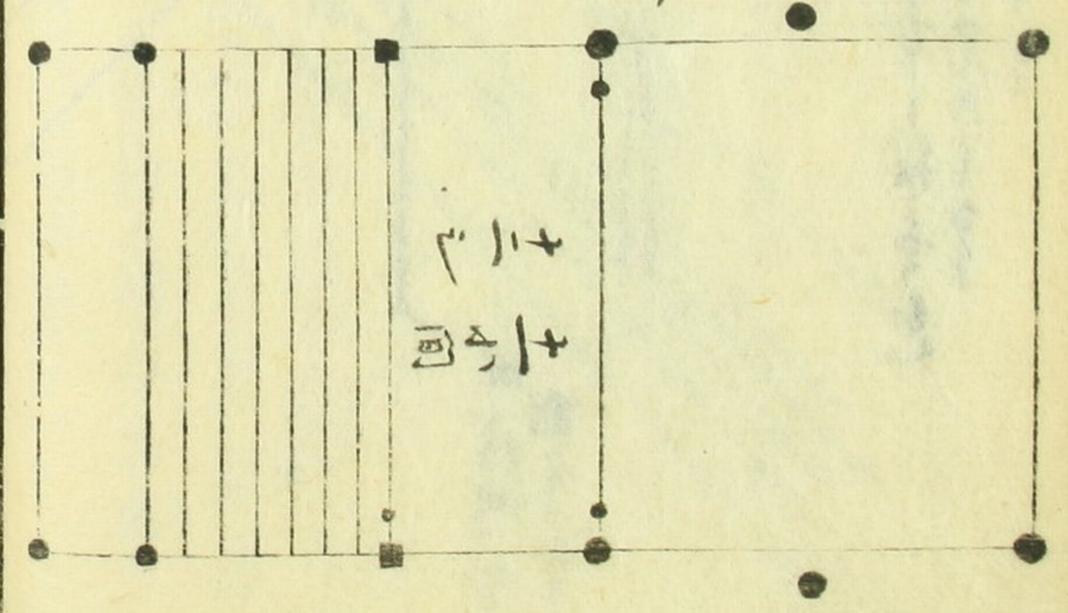


但し柱間ラニツ小
割モツ小

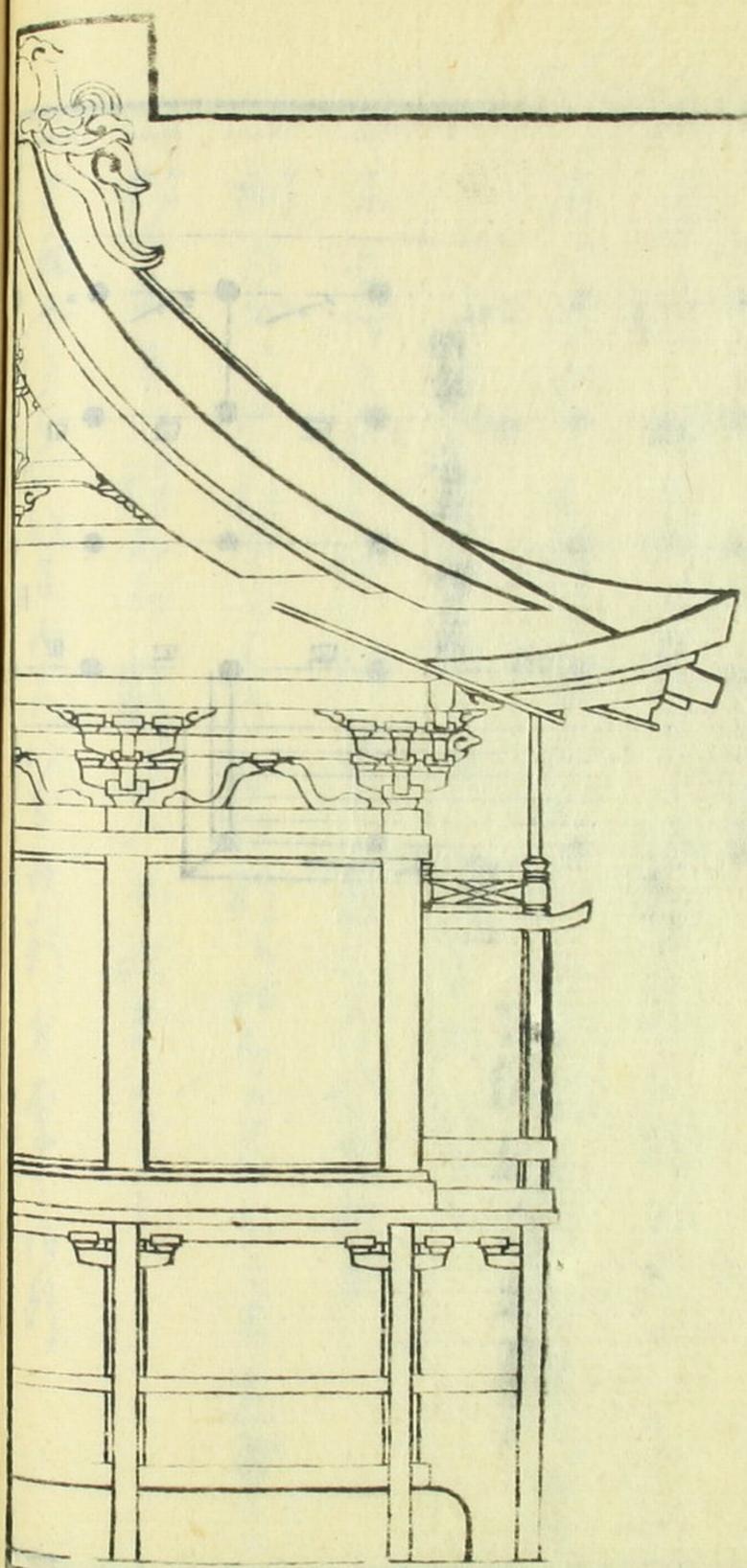
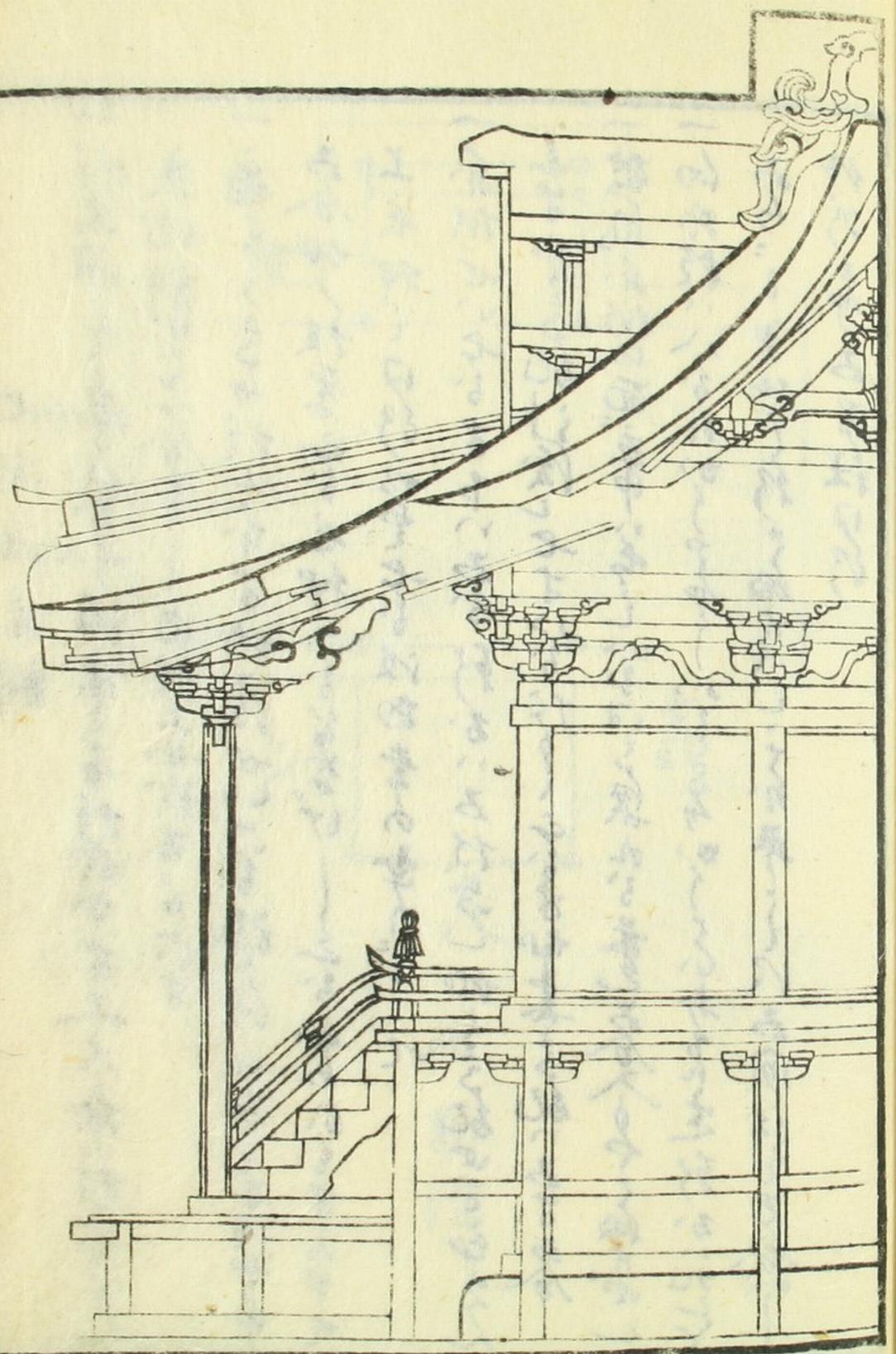
おとどほいよりおしよりすめいごもふりて板よりおし
本巴あやんあふあふ下いめん内厚サめん五り
かゝの板もか考きあふとまをいへんあふ



神明之間裏作リ

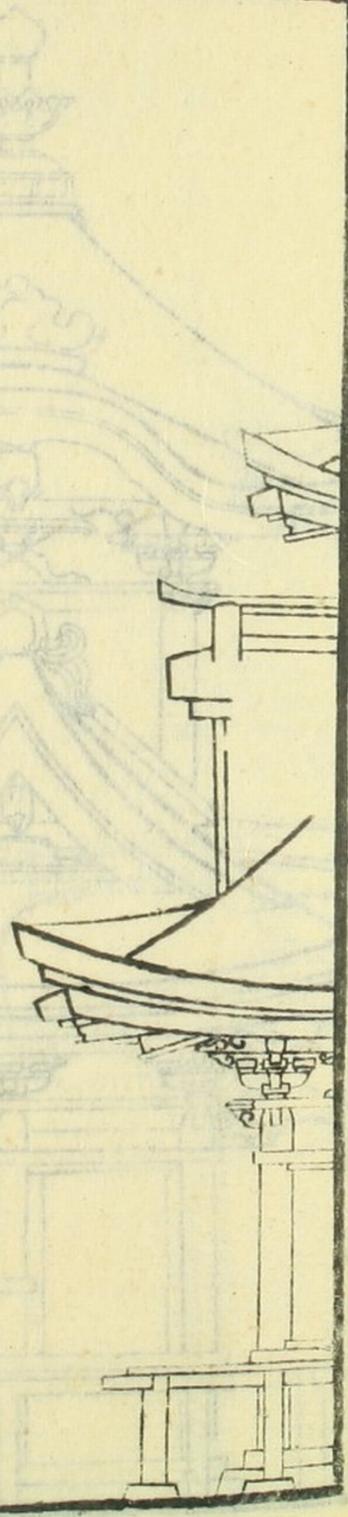
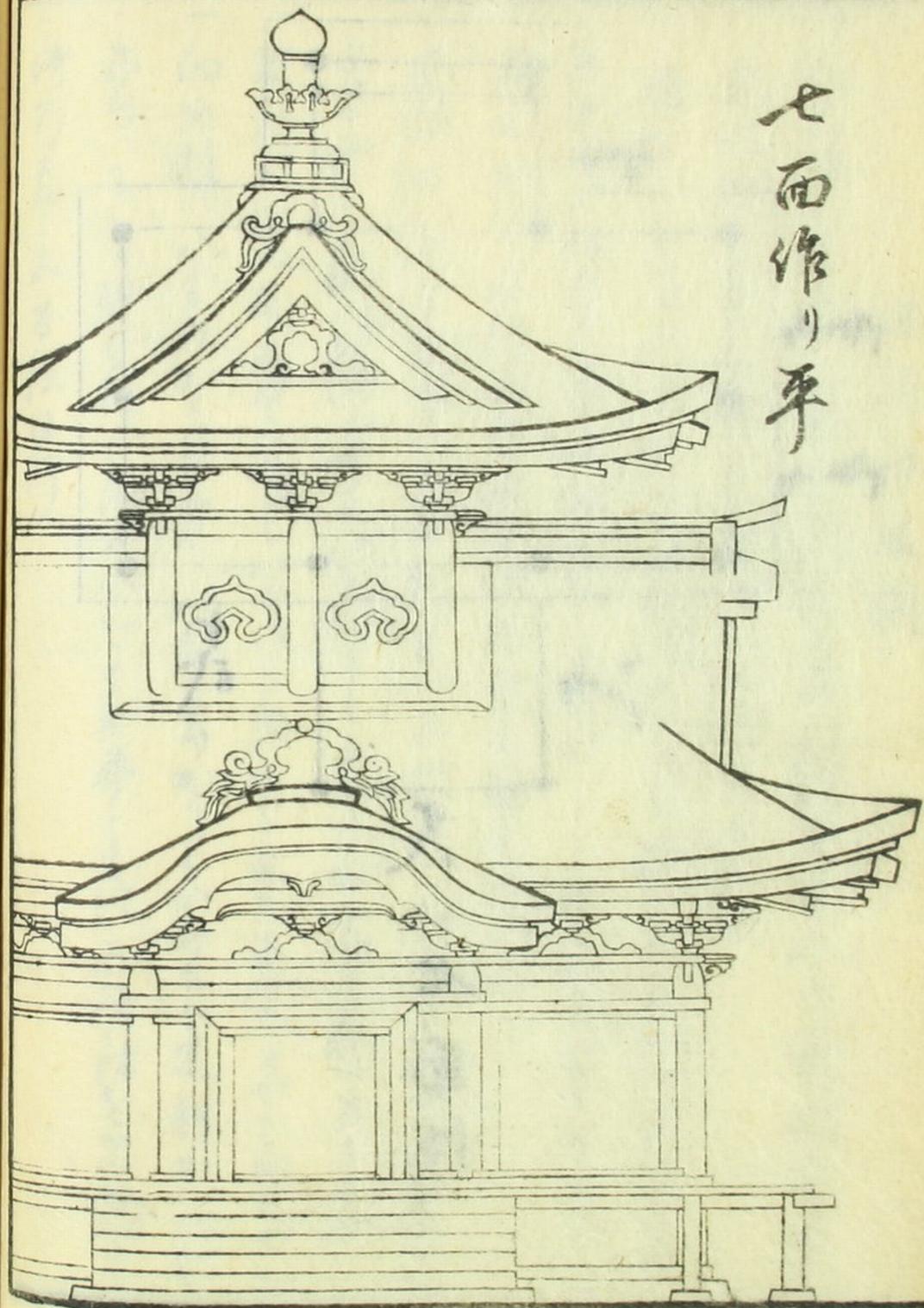


十一
十一



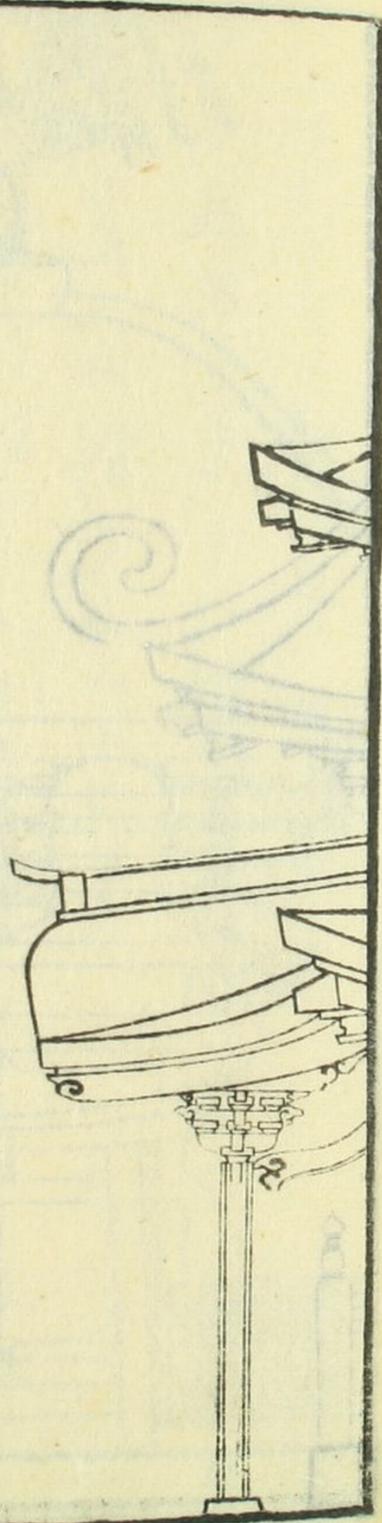
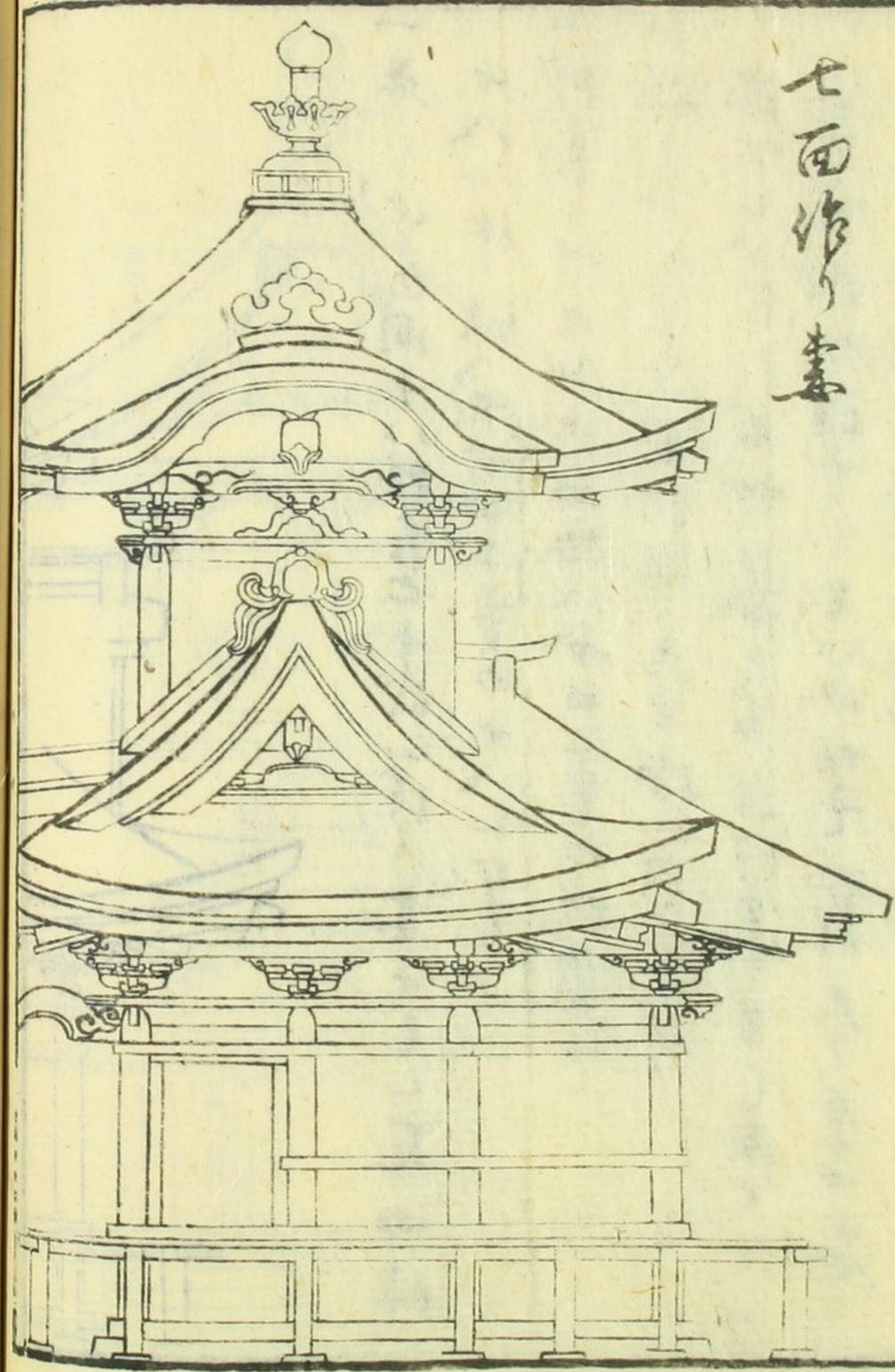
七間社本社造

七面作り平

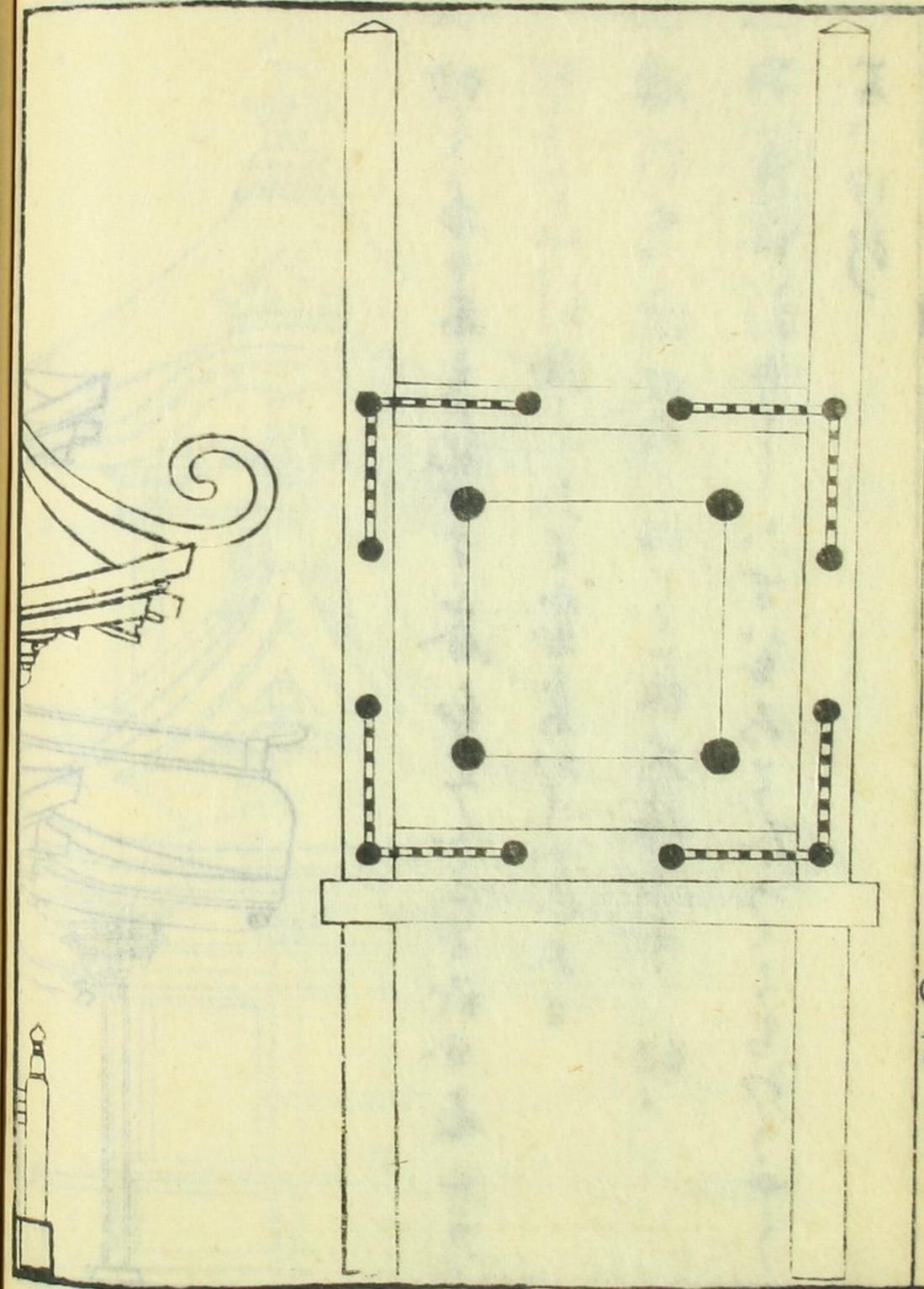
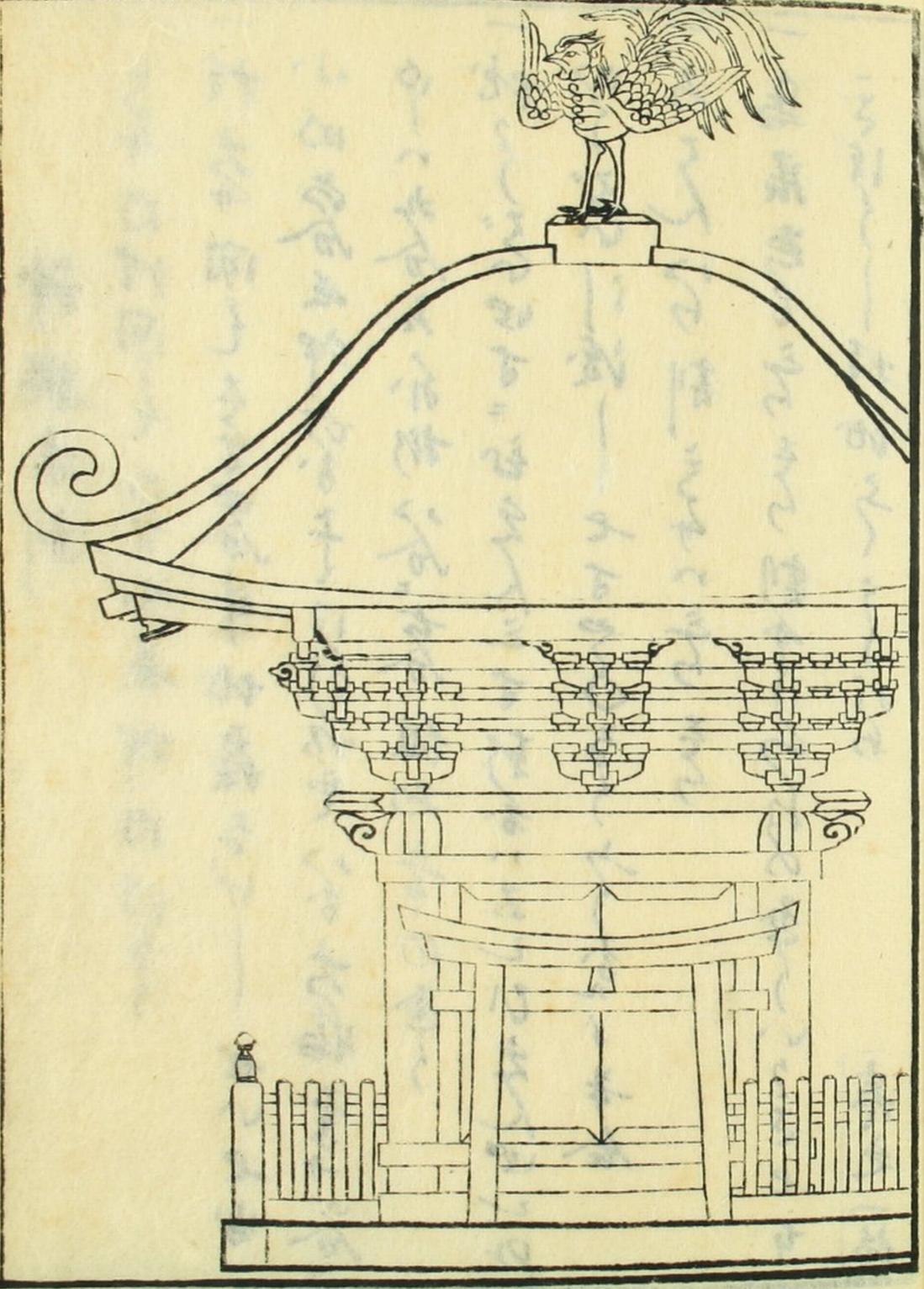


一 平の間の間十八枝左右十式にげし妻十寸に宛て四拜
 十八の中段へ十四に二をわ十八にかり
 一 柱高くて九分半の柱八分五厘の柱分紅
 一 縁高半柱五分半比う五分縁か川ら口所
 一 縁板三分半は長押五分五分内法妻し五分間と五分
 一 上長押五分五分は五分五分口所大五分五分
 一 上五分五分は五分五分の割懸し

七面作の妻



一 地へ多り木を配四寸五分をえん二寸五分を取乃
 四寸五分の引後一六寸五分を素のうごふみす
 一 腰柱を結やれぬを棟太痛むかへ細
 一 節屋杯引や一六寸五分をえんうくもちわりや
 一 高二尺四寸



九ノ二ノ...

神輿本割

一 三ノ内法同し九ノ長押内法を
 一 指去内同し三ノ界分斗地履をいへ—廿い七出
 小の分長押亦上は日行取費の分去漏厚斗界
 中ハ九分五斗界の分組也常の意
 一 地ノ内法同し三ノ長押内法をいへ—廿い七出
 一 一ノ内法同し三ノ長押内法をいへ—廿い七出
 一 鳥居表名三ノ長押内法をいへ—廿い七出
 一 一ノ内法同し三ノ長押内法をいへ—廿い七出

